

令和元年度 グリーンスローモビリティの活用検討に向けた 実証調査支援事業

実施計画書

実証地域	笠岡諸島(北木島, 高島, 真鍋島)
提案者	岡山県笠岡市
事業名称	スローな空間・スローな乗り物 ～期待に応えるモビリティ@笠岡諸島～

1

【1 実証調査の背景・目的】

1 地域の概況(地域交通の状況)

I 実証地域の概要

笠岡諸島は岡山県の西南部に位置しており、南は香川県、西は広島県に接し、大小約30の島々が南北に帯状に点在している。そのうち高島・白石島・北木島・真鍋島・大飛島・小飛島・六島の7つの島が有人島である。人口は、笠岡諸島全体で平成31年(2019年)4月1日現在1,651人、世帯数1,048世帯で、65歳以上の高齢化率が68.7%となっている。

令和元年5月に笠岡諸島が離島部として初めて日本遺産に認定され、地元企業、島民、行政が一丸となり、観光を起爆剤として新たな街おこしが始まろうとしている。



位置図

II 地域の都市特性

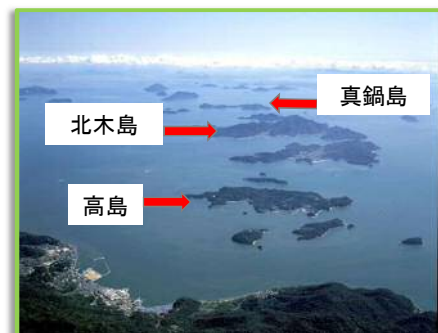
笠岡諸島の集落は、狭く細く入り込んだ造りとなっており、自宅前まで乗用車を乗り入れることが困難な場所が多い。また、燃油の販売所は北木島にしかなく、唯一のGSも需要の低下によって、存続の危機に瀕している。



日本遺産 北木島の石丁場



笠岡諸島唯一のGS



笠岡諸島

2

【1 実証調査の背景・目的】

Ⅲ 地域の公共交通

陸地部への交通手段は旅客船及びフェリーによるところが多い。島内の公共交通は北木島において、公共交通空白地自家用有償運送によるコミュニティバスが3回／週運行しているのみで、それ以外の公共交通はなく、高齢化した島しょ部において、病院や買物をはじめとした外出についての足の確保に苦慮しており、ドアツードアの交通が必要とされている。



公共交通空白地自家用運送 ふれあい号



笠岡諸島 航路図



公共交通空白地自家用運送 路線図

【1 実証調査の背景・目的】

2 地域課題と解決に向けた方向性

I 実証地域が抱える交通課題

日本遺産認定による観光客の島内移動手段の確保及び、歩行の困難な高齢者や傷病人の移動手段の確保が喫緊の課題となっている。また、ガソリン等燃油の調達も困難になっている。

II 課題解決のための方向性

「観光客の移動環境の整備」「高齢者等の外出・買い物支援」を行うための燃油を必要としない機材でのデマンド交通システムの構築が望まれる。

また、幅の狭い道路にも入れる緊急車両の導入が望まれる。

III 課題解決に当たり、グリースローモビリティの優位性

- ①「小型Small」: 狭路やクランクが多い集落を快走でき、高齢者の自宅前までアクセスできる
- ②「低速Slow」: スローライフな笠岡諸島の生活スタイルに馴染み、雄大な自然をゆっくりと楽しむことができる
- ③「安全Safety」: 高齢者や観光客が島内を安全に移動でき、歩行者や自転車と共存できる
- ④「開放感Open」: 低床車両で高齢者が乗り降りしやすく、潮風の香りを感じながら移動できる
- ⑤「環境性Green」: 燃油の入手困難な島地において、電気自動車は有効的であり、自動車からの置き換えによって、CO₂を削減することができる

IV 実証地域における上位関連計画

- ・第7次笠岡市総合計画(環境に配慮した自動車の普及促進を図る)
- ・第2次笠岡市環境基本計画(次世代自動車等環境に配慮した自動車を導入する)
- ・福山・笠岡地域公共交通再編実施計画(仮称)に記載予定



狭隘な道路

【2 実証調査の概要】

スローな空間・スローな乗り物
～期待に応えるモビリティ@笠岡諸島～

1 実証の全体像

I グリーンスローモビリティの活用によって目指す将来像

人口減少・高齢化が著しく進み、道幅が狭い集落で、タクシーもない地域で地域住民の足として活用

⇒地域コミュニティの活性化，高齢者の福祉増進

日本遺産の認定などを受け，観光地のモビリティとして散策環境の充実に活用

⇒観光客の回遊性や滞在時間の拡大，地域ブランディングの創出

燃油の調達が困難な離島において，燃油に頼らないモビリティの活用

⇒自然環境に配慮し，歴史文化や住民の暮らしとの調和

道幅が狭く，車両が進入できない集落で，緊急車両として活用

⇒車両が通行できる道路や港まで迅速に傷病人を搬送



II 実証の概要

- ・定時定路線で地域内の丁場などの主な観光施設を周遊乗合運行(北木島)
- ・港などに待機し，船の離発着時間にあわせた乗合タクシー的な運行(高島)
- ・9月29日(日)開催予定の島の大運動会で，参加者の運搬及び展示によるPR(真鍋島)
- ・豊浦港，金風呂港のフェリー及び高島港の定期航路に接続
- ・緊急車両(軽自動車)をグリーンスローモビリティに転換できるか検証



5

【2 実証調査の概要】

スローな空間・スローな乗り物
～期待に応えるモビリティ@笠岡諸島～

2 実証によって実現を目指す地域交通の将来像

「福山・笠岡地域公共交通網形成計画」の基本方針

「多様な運行方法による過疎化・高齢化に対応した移動手段の見直し」



グリーンスローモビリティを活用する方針

具体的な活用方針

- I. 北木島，高島及び真鍋島の実証事業をもとに，グリーンスローモビリティを新たな公共交通として利用するだけでなく，道幅が狭い集落に住む高齢者の傷病に対応するための緊急車両として，笠岡諸島有人7島に展開することを検討。
- II. GSが北木島にしかなく，他の島では本土もしくは北木島から船で燃油を運搬しているため，高齢化の著しい島しょ部において，燃油に頼らないグリーンスローモビリティの普及を目指す。
- III. 島しょ部において，新しいモビリティを使用することで，グリーンスローモビリティに乗り，自然の風を感じることを目的としたスローな観光を創生する。

6

【3 実証調査の詳細】

【3.1 運用エリア 北木島豊浦地区・金風呂地区】



7

【3 実証調査の詳細】

【3.1 運用エリア 高島地区】



8

【3 実証調査の詳細】

【3.1 運用エリア 真鍋島地区】



9

【3 実証調査の詳細】

【3.2 運用方法】

(1) 運用方法(その1)

	北木島地区	高島地区
運行期間	令和元年9月13日(金)～9月26日(木)	令和元年9月20日(金)～9月25日(水)
ルート長	全長3.7km	王泊方面750m 黒土港400m
運行台数	4人乗りゴルフカート2台(高島地区運行期間は1台)	4人乗りゴルフカート1台
運行時間帯	9時～16時 (充電・運転手の休憩等を含む)	9時～16時 (充電・運転手の休憩等を含む)
運行形態	定時定路線運行 空き時間はデマンド運行	エリア内を不定期運行 ①観光スポットへの乗合運行 ②デマンド型のタクシー(乗合)運行
料金	無償(許可等を要しない運送の形態で運行)	無償(許可等を要しない運送の形態で運行)
運転手	NPO法人かさおか島づくり海社職員を中心に運行	島民の内自動車運転免許保有者がボランティアで行う
車庫の設置場所	豊浦地区NPO法人かさおか島づくり海社管理の倉庫	高島港近くの自治会の倉庫

【3 実証調査の詳細】

【3.2 運用方法】

(2)運用方法(その2)

	北木島地区	高島地区
確保方法	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会や島づくり海社と連携し、北木島豊浦・金風呂地区に実証実験実施前に広報チラシの全戸配布、ポスターの掲示、各町内会長への周知の徹底 ・笠岡市公式FacebookなどのSNSなどの各種メディアを活用した情報発信の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会と連携し、高島地区に実証実験実施前に広報チラシの全戸配布、ポスターの掲示、各町内会長への周知の徹底 ・笠岡市公式FacebookなどのSNSなどの各種メディアを活用した情報発信の実施
効果検証方法	<ul style="list-style-type: none"> ・地元住民、観光客や運行者(島づくり海社)などに対し、料金設定や乗り心地などの感想、課題などに関してアンケート調査を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・地元住民、観光客や運行者などに対し、乗り心地などの感想、課題などに関してアンケート調査を実施
その他	事業化時にはデマンド型で有償運行予定	事業化時には有償運行予定

真鍋島地区			
運行期間	9月29日(日)	料金	無料
運行台数	4人乗りゴルフカート2台	運転手	笠岡市職員
運行時間帯	9時～15時	車庫の設置場所	笠岡市真鍋島出張所倉庫
運行形態	港～運動会会場及び会場内試走	その他	会場での展示等でPRを行う

11

【3 実証調査の詳細】

【3.2 運用方法 北木島豊浦・金風呂地区】

北木島グリーンスローモビリティ実証運行 時刻表

	1便	2便	3便	4便	5便
豊浦港	9:05	10:30	11:05	14:05	15:20
北木島郵便局	9:07	10:32	11:07	14:07	15:22
展望台	9:09	10:34	11:09	14:09	15:24
丁場湖	9:13	10:38	11:13	14:13	15:28
鶴田石材前	9:15	10:40	11:15	14:15	15:30
光劇場前	9:16	10:41	11:16	14:16	15:31
金風呂港	9:18	10:43	11:18	14:18	15:33
靖国神社残念石	9:20	10:45	11:20	14:20	15:35
北木のベニス	9:23	10:48	11:23	14:23	15:38
展望台	9:25	10:50	11:25	14:25	15:40
K'sLABO	9:27	10:52	11:27	14:27	15:42



☆時刻表に従い、定時定路線運行を行うが、空き時間はデマンドで区域内を走行する。

12

【3 実証調査の詳細】

【3.2 運用方法 高島地区】



【3 実証調査の詳細】

【3.2 運用方法 真鍋島地区】



【3 実証調査の詳細】
 【3.2 運用方法】

(3)周知・広報計画[利用者確保方法]

北木島町内会	・9/6北木島大浦, 豊浦, 金風呂地区で住民を対象に概要を説明、利用とアンケートを依頼
高島自治会	・8/20自治会長と協議。全戸にチラシ配布及び利用とアンケートを依頼。9/1自治会理事会で協力依頼。
チラシ配布	・北木島・高島地区内の全戸(約800世帯)を対象にチラシを配布 ※9/1の週から配布
NPO周知活動	・NPOメンバーによる地区住民への声かけ
市広報誌	・笠岡市広報誌“広報かさおか”に“グリスロ実証運行”の記事掲載 ※9月初旬市内全戸配布
マスコミ	・9/3 市政記者会(マスコミ)に情報提供(紙資料及び電子メール)

▼ チラシ (北木島)



▼ チラシ (高島)



▼ チラシといっしょにポケットティッシュを配布



【3 実証調査の詳細】
 【3.2 運用方法】

(4)デマンド予約の運用(北木島)

項目	運用方法
予約窓口	NPO法人かさおか島づくり海社()
受付時間	9時～16時
予約方法	・前日までに電話予約 ①名前、②自宅の住所、③乗りたい日、④乗りたい時間⑤目的地の確認、⑥乗車場所(自宅、自宅近くの目印)、

利用者名	日 (曜日)	迎車時間	乗車場所 (自宅・目印)	目的地	利用者電話番号	受付者
行	()	:				
行	()	:				
行	()	:				
行	()	:				
行	()	:				
行	()	:				
行	()	:				
行	()	:				
行	()	:				
行	()	:				
行	()	:				
行	()	:				

【3 実証調査の詳細】

【3.2 運用方法】

(4) デマンド予約の運用(高島)

項目	運用方法
予約窓口	自治会長(), 公民館長()
受付時間	9時～16時
予約方法	<ul style="list-style-type: none"> ・前日までに電話予約 ①名前、②自宅の住所、③乗りたい日、④乗りたい時間⑤目的地の確認、⑥乗車場所(自宅、自宅近くの目印)

石の島モビリティ予約受付表

月 日

利用者名	日 (曜日)	迎車時間	乗車場所 (自宅・目印地)	目的地	利用者電話番号	受付者
	行・ 帰行・	:				
	行・ 帰行・	:				
	行・ 帰行・	:				
	行・ 帰行・	:				
	行・ 帰行・	:				
	行・ 帰行・	:				
	行・ 帰行・	:				
	行・ 帰行・	:				
	行・ 帰行・	:				
	行・ 帰行・	:				

17

【3 実証調査の詳細】

【3.2 運用方法】

(5) 効果検証方法(調査方法)

調査	調査方法
運行日誌	・利用便毎に利用者数、その他気づきを運転手が記入
運行日誌(地図)	・利用便毎に地図に運行ルート、その他気づき(よかった点、問題点等)を運転手が記入
アンケート調査	・乗車時に利用者にアンケート調査票を配布、回収(必要に応じて聞き取り調査)
運行関係者へのヒアリング	・実証期間終了後、笠岡市でアンケート又はヒアリングを実施

▼ 運行日誌

▼ 運行日誌 (地図)

▼ アンケート調査票案

18

【3 実証調査の詳細】

【3.2 運用方法】

(6)必要インフラ等の確認

項目	内容
車両	・ゴルフカート4人乗り×2台〔全長3.11m 全幅1.21m 全高1.83m 最少回転半径3.4m〕
保管場所	①北木島:島のこし ②高島:一力水産倉庫 ③真鍋島:ゆきの浜処理場
充電設備	①100V×2口×2 ②100V×2口 ③100V×2口×2

▼ NPOの倉庫(島のこし)(2台駐車可)



▼ 倉庫(島のこし)内の電源(100V×2口×2)



【3 実証調査の詳細】

【3.2 運用方法】 (6)必要インフラ等の確認

▼ 高島保管場所



▼ 高島倉庫内の電源(100V×2口)



▼ 高島一力水産倉庫内部



▼ 真鍋島保管場所(2台駐車可)



▼ 真鍋島(ゆきの浜処理場)の電源(100V×2口×2)



【3 実証調査の詳細】

【3.2 運用方法】 (6)必要インフラ等の確認

▼ ゴルフカート4人乗り(日立製)



▼ 笠岡市実験車両



▼ 車両掲示(前部A4サイズ)



▼ 車両掲示(後部A3サイズ)



21

【3 実証調査の詳細】

【3.2 運用方法】

(7)搬入搬出、保管、移送

項目	日時	場所	内容[担当者]
搬入 【借受】	9/12(木) 9時～ フェリー10時発	伏越港～北木島	・日立がトラックで搬入9時 ・受取り立会い[笠岡市 ■■■] ・北木島の講習会場・保管場所への移動[復建]
運転者 講習会	9/12(木)13時～15時 9/19(木)15時～16時	豊浦ふれあい会館 高島公民館グラウンド	・講習(カートの説明) ・運転者の試運転
①北木島 での保管	9/12(木)～9/27 (金)	島のこし	・保管、充電[管理者:NPO法人かさおか島づくり海社 理事 長 ■■■]
②高島 への移送	9/19(木) 14時～15時	豊浦港～高島	・清笠丸(市フェリー)で移送[笠岡市 ■■■]
②高島 での保管	9/19(木) ～9/26(木)	一力水産倉庫	・保管、充電[管理者:高島自治会長 ■■■]
③真鍋島 への移送	9/26(木)・9/27(金) 9～14時	高島～真鍋島 北木島～真鍋島	・清笠丸(市フェリー)で移送[笠岡市 ■■■]
③真鍋島 での保管	9/26(木) ～9/30(月)	ゆきの浜処理場	・保管、充電[管理者:笠岡市 ■■■]
搬出 【返却】	9/30(月) 16時～	真鍋島～伏越港	・保管場所から笠岡市環境課へ移動[笠岡市 ■■■] ・日立がトラックで搬出 10/1 9時 ・受取り立会い[笠岡市 ■■■]

22

【3 実証調査の詳細】

【3.2 運用方法】

(8) 運転者講習会

講習会	北木島	高島
日時	9月12日(木) 13時～15時	9月19日(木) 15時～16時30分
場所	豊浦ふれあい会館、周辺道路	高島公民館、周辺道路
講習内容	1) 講習 2) 運転手の試運転	1) 講習 2) 運転手の試運転
受講者	①NPO: 運転手予定者 6名 ②笠岡市: 10名程度	①地元: 運転手予定者 19名 ②笠岡市: 3名
準備	・受講者は運転免許書	・受講者は運転免許書

町の自転車リサイクル講習手配表

区名	講習日(曜日)	講習開始時刻	講習終了時刻	講習場所	講習時間	講習参加者数	講習内容
北木島							
高島							
真鍋島							

※全員26才以上
(任意保険の条件)

▼ 講習の様子(9/12北木島)



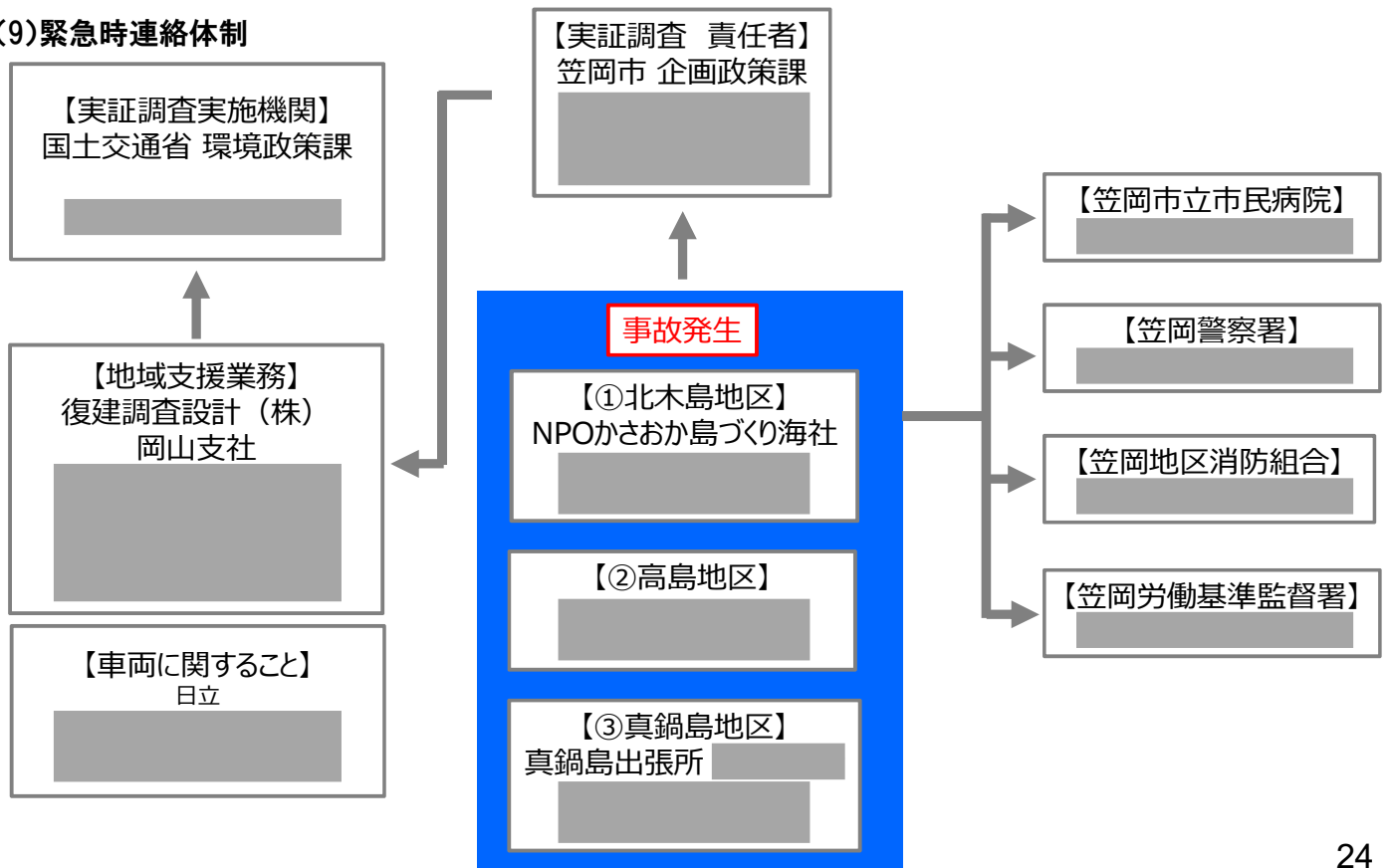
▼ 試運転の様子(9/12北木島)



【3 実証調査の詳細】

【3.2 運用方法】

(9) 緊急時連絡体制



【3 実証調査の詳細】

【3.3 実施体制】

(1)実施体制

団体名	役割
笠岡市	実証調査責任者, 関係各所との調整
NPO法人かさおか島づくり海社	運転手人材の輩出, 広報支援
北木島地区町内会	地域住民に関する情報提供, 広報支援
高島地区自治会	運転手人材の輩出, 地域住民に関する情報提供, 広報支援

(2)地方公共団体内での役割分担

所属名・担当者名	役割
企画政策課 []	実証調査責任者
企画政策課 []	NPO法人かさおか島づくり海社との調整, 北木島地区町内会との調整
企画政策課 []	警察・運輸局・交通事業者との調整
企画政策課 []	高島地区との調整
建設管理課 []	道路管理者として協議

25

【3 実証調査の詳細】

【3.4 関係機関との調整状況】

(記載方法)

- 実証調査に当たり調整が必要となる関係機関・団体等について記載すること(必要に応じて行を追加すること)。
- 該当期間がない場合, 今回は関係しない場合は, その旨を所定の欄に記載すること。

		団体名		実証調査の調整状況	事業化に対する協力意向	備考
			該当機関			
公共交通機関等	バス		該当機関なし	①同意済 ②相談中 ③今後実施	①あり ②実証結果で判断 ③なし ④未確認	
	タクシー		該当機関なし	①同意済 ②相談中 ③今後実施	①あり ②実証結果で判断 ③なし ④未確認	
	コミュニティバス	NPO法人 かさおか島づくり海社		①同意済 ②相談中 ③今後実施	①あり ②実証結果で判断 ③なし ④未確認	
行政	道路管理者	笠岡市建設部建設企画課		①同意済 ②相談中 ③今後実施	①あり ②実証結果で判断 ③なし ④未確認	
	道路管理者	岡山県備中県民局井笠地域管理課		①同意済 ②相談中 ③今後実施	①あり ②実証結果で判断 ③なし ④未確認	
	地方運輸局・支局	岡山運輸支局		①同意済 ②相談中 ③今後実施	①あり ②実証結果で判断 ③なし ④未確認	
その他	警察	笠岡警察署		①同意済 ②相談中 ③今後実施	①あり ②実証結果で判断 ③なし ④未確認	
	観光協会	笠岡市観光連盟		①同意済 ②相談中 ③今後実施	①あり ②実証結果で判断 ③なし ④未確認	
	地域住民	北木島豊浦・金風呂地区住民		①同意済 ②相談中 ③今後実施	①あり ②実証結果で判断 ③なし ④未確認	
	地域住民	高島地区住民		①同意済 ②相談中 ③今後実施	①あり ②実証結果で判断 ③なし ④未確認	運転手人材の輩出
	その他	NPO法人 かさおか島づくり海社		①同意済 ②相談中 ③今後実施	①あり ②実証結果で判断 ③なし ④未確認	運転手人材の輩出

26

【3 実証調査の詳細】

【3.5 事業化に向けた検討】

1 構想の実現に向けた中長期のロードマップ

実施内容	令和元年度	令和2年度				令和3年度
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期		
実証運行で有効性を確認							
車両調達							
事業化に伴い、許可の変更に係る運営協議会・変更申請							
区域内乗合事業開始							

2 事業化後の事業スキーム

◆ 運行事業者

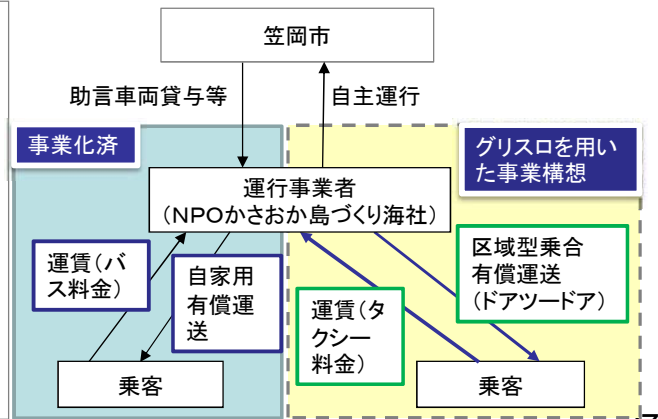
NPO法人かさおか島づくり海社

◆ 事業化の際の道路運送法上の区分

自家用有償旅客運送で、北木島全体を区域内とする乗合事業化を目指す。

◆ 事業実施時の事業スキーム

- ・ コミュニティバスに加え、ドアツードアのタクシーとしての事業化を目指す。
- ・ 車両は市で購入し、運行事業者に貸与する。



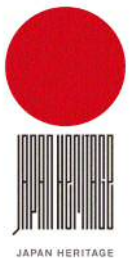
27

【3 実証調査の詳細】

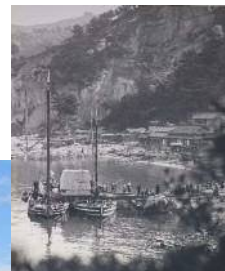
【3.6 その他】

笠岡諸島の日本遺産

知ってる!? 悠久の時が流れる石の島
～海を越え、日本の礎を築いた せとうち備讃諸島～



明治以降、島から切り出された石は海を通り日本の近代化を支えた



瀬戸内海を通り、建築現場へ

笠岡諸島の石の建築物



【3 実証調査の詳細】

【3.6 その他】



スローな空間

スローな乗り物

悠久のを感じさせる遺産

さあ行こう！島という非日常へ

令和元年度 グリーンスローモビリティの活用検討に向けた 実証調査支援事業 実行計画書

実証地域	山口県 宇部市
提案者	宇部市長 久保田 后子
事業名称	“コンパクトシティに向けて” どこでも入れる「地域の足」 まちなかグリーンスローモビリティ 実証事業

【1. 実証調査の背景・目的】

【2. 実証調査の概要】

【3. 実証調査の詳細】

3.1 運用エリア、3.2 運用方法、3.3 実施体制、3.4 関係機関との調整状況、3.5 事業化に向けた検討、3.6 その他

※「3.6 その他」については任意記載項目とする

1

【 1 実証調査の背景・目的 】

山口県 宇部市

1) 実証地域の概要（社会経済特性、地理的特性等）

■宇部市は、2021年に市制施行100周年を迎える本州西端の山口県の南西部に位置する人口約165,000人（高齢化率32.7%）の地方都市で、気候は、温暖で雨が比較的少ない**典型的な瀬戸内海式気候**である。

■南は瀬戸内海に面し、市中央部以北の丘陵地は**豊かな自然**があふれているが、中央部・南部には、UBEビエンナーレ彫刻の丘がある「ときわ公園」のほか、山口大学医学部・工学部などの**学術研究機関**、重要港湾である宇部港を中心にした**港湾地帯・臨海工業地域**などがあり、多様な要素を有している。

2) 実証地域の都市特性（都市施設の立地状況）や道路状況

■都市の特性として、本市は非線引き都市であることから、**都市施設や住民が市域全域に分散**しており、人口減少や少子高齢化が進行するとともに、モータリゼーションの進展、都市のスプロール化による**中心市街地の空洞化、市街地の低密度化**が進み、公共交通の利用者も減少している。

■県内外の主要都市と本市を連絡する道路として、**山陽自動車道宇部下関線**や**山口宇部道路**、**国道2号**が整備されており、近年では、山口宇部小野田連絡道路の一部区間として、**宇部湾岸道路（宇部スカイロード）**が整備された。

■市域**東西を国道190号**が貫き、市街地を形成する軸となっている。また、市域**南北を国道490号**が貫き、市域南部と北部を結ぶ軸となった道路網が形成されている。さらに、**海浜部には宇部港**があり、**山口宇部空港も市街地に近い位置**にあるなど、**陸海空**それぞれの交通環境が整っている。

3) 地域の公共交通

■本市の地域の公共交通としては、海岸線及び市街地に**JR宇部線**、南西部に**JR小野田線**、市の中部に**JR山陽本線**があり、**宇部市交通局など3社の路線バス**、6地区の**コミュニティタクシー**、4地区での**デマンド交通**、10社の**タクシー**と多様な公共交通機関が存在する。

■現状では、全国平均と比較すると、地域公共交通の**総合アクセシビリティの水準は高い**が、人口減少、少子高齢化の進行により、公共交通事業を取り巻く環境は年々厳しさを増しており、特に本市の様な地方部においては、**公共交通機関の輸送人員の減少**により、公共交通網の縮小やサービス水準の低下が懸念されている。

2

4) 実証地域が抱える交通課題

■公共交通においては、運行本数の減便も相まって、JR宇部線の利用者数がここ20年間で約半減(8,479人/日 ⇒ 4,233人/日)、宇部市交通局(バス)においても利用者数がここ20年間で約4割減(11,379人/日 ⇒ 6,450人/日)となっており、自宅からバス停や駅へのアクセスの利便性向上が求められている。

■高齢者などの移動手段の確保に取り組むうえで、買い物に加え、道路幅員が狭く、バスが運行できない道路沿いのクリニックの受診も併せて可能とする地域公共交通が切望されている。

5) 上記課題を解決するための方向性

■平成31年3月に策定した「宇部市立地適正化計画」で掲げる多極ネットワーク型コンパクトシティへの転換を推進するため、新たな発想で便利で使いやすい地域公共交通網を確保することが重要だと考えている。

■また、平成29年12月に「共生社会ホスタウン」に全国で初めて登録され、さらに、平成30年6月には、「SDGs未来都市」に選定されたことから、多極ネットワーク型コンパクトシティへの転換と併せて、住み慣れた地域で誰もが安心して暮らせるまちづくり、また、誰ひとり取り残さないまちづくり、誰もが生き生きと暮らせる共生社会の実現を推進していく。

6) 課題解決に当たり、グリーンスローモビリティの優位性について

■「まちなか」の地域課題の解決にあたり、グリーンスローモビリティのどこでも入れる《小型Small》に加え、高齢者なども安心できる《低速Slow》《安全Safety》さらに、「環境性Green」、移動手段以外の付加価値《繋がりCommunication》といった特性に他のモビリティにない特長の優位性があり、「地域の足」として地域課題解決の有効性が期待できる。また、市民に次世代モビリティ(BRT・自動運転・MaaS等)を想像させ、リテラシーの醸成も進展させる。

7) 実証地域における上位関連計画

■「宇部市立地適正化計画」では、都市機能誘導の取組の一つとして次世代公共交通システムの検討と記載しており、グリーンスローモビリティの本格導入となれば、同計画の関連施策として明記する。また、「宇部市地域公共交通網形成計画」や「宇部市公共交通再編実施計画」にも、宇部市公共交通協議会での承認後に新たな地域公共交通として明記する。

3

“コンパクトシティに向けて”

どこでも入れる「地域の足」まちなかグリーンスローモビリティ実証事業

1) 実証の全体像

まちづくりと交通政策を一体化した次世代公共交通システムの導入

■3月末に策定した「宇部市立地適正化計画」では、中心市街地である都市拠点、市内4箇所の地域拠点、郊外部の地域コミュニティ核を結ぶ公共交通を軸とし、それぞれの拠点や地域コミュニティ核が機能を補完しあう「多極ネットワーク型コンパクトシティ」への転換と併せて、地域支え合い包括システムの構築を図ることで、誰もが安心して歩いて暮らせるまちづくりの実現を目指すこととしている。

■このため、まちづくりと交通政策を一体化させた「交通まちづくり」を進めており、引き続き、路線バスをはじめとした従来の公共交通の利便性を高めるとともに、現在の公共交通に変わり、また、補完する安全で利便性の高い次世代公共交通システムの導入について検討を進めている。

■広域にアクセスする基幹公共交通軸として、既存のJR宇部線・小野田線や路線バスの主要幹線の維持を図るとともに、道路幅員が狭くバスが運行できない地域での、ローケーションシステムなどを活用した利便性の高い次世代公共交通システムによる可能性を検討する。

■本市の顔である中心市街地では、昨年末から百貨店や大規模スーパーが相次いで撤退し、中心市街地に居住する高齢者などの日常的な買い物に大きな支障が生じている。

■そこで、「まちなか」において、主要な生活関連施設や交通結節点等への移動が困難な高齢者の移動手段として、グリーンスローモビリティの導入実証を行うことで、スーパーへの買い物やクリニックへの通院等の日常の移動手段としての検証も行う。

4

“コンパクトシティに向けて”

どこでも入れる「地域の足」まちなかグリーンスローモビリティ実証事業

2) 実証により実現を目指す地域交通の将来像

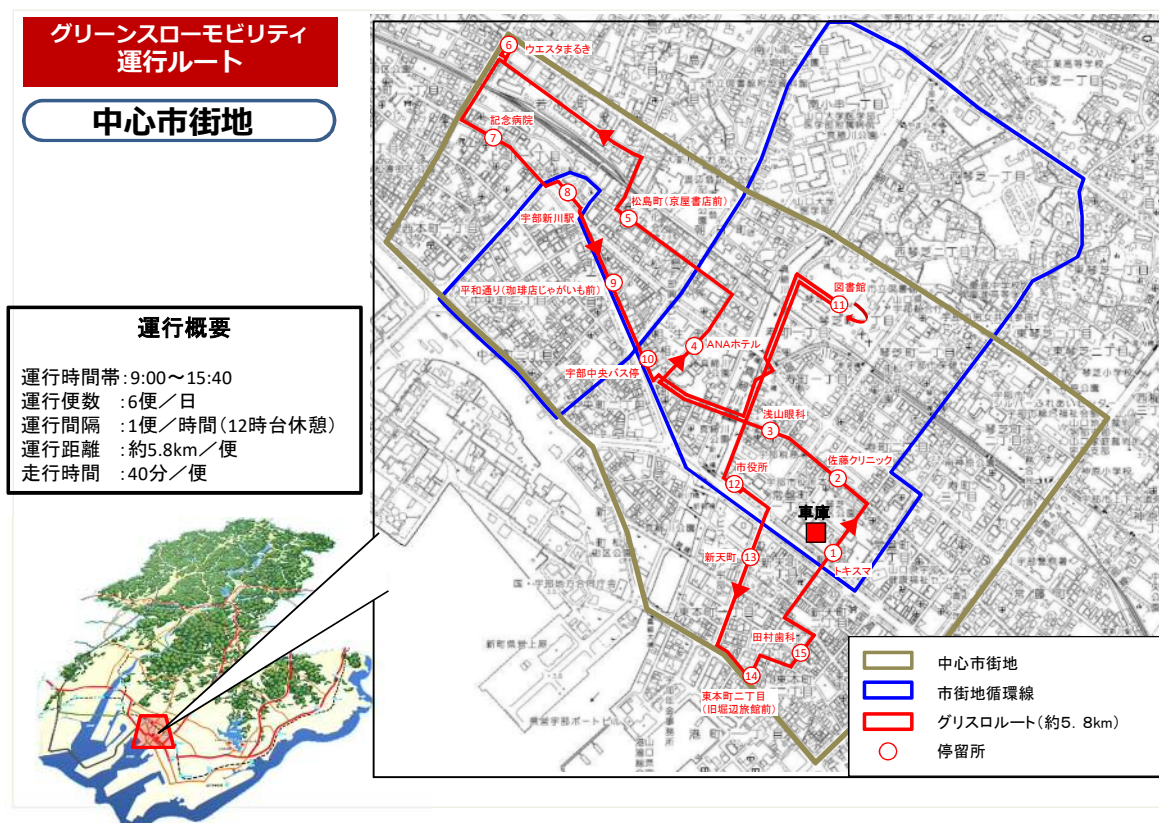
■高齢者をはじめとする市民の外出機会の創出は、歩いて暮らすことでの健康づくりや、人との交流を活性化させるなどの側面もあり、地域共生のまちづくりを目指す観点からも重要だと考えている。

■しかしながら、人口減少社会に突入し、公共交通の維持が厳しくなる一方で、高齢化により交通弱者は増え続けている中、安全で利便性の高いグリーンスローモビリティは、「使いやすく、持続可能な地域公共交通網」の一翼を担い、自宅から駅やバス停、主要な生活関連施設などへの「地域の足」として、元気で安心な暮らしを支えるとともに、公共交通の利用促進やグリーンスローモビリティ導入による環境負荷の低減を図り、便利でエコな移動を促進する。



【 3 実証調査の詳細 】

【 3.1 運用エリア 】



【 3 実証調査の詳細 】
 【 3.1 運用エリア 】

山口県 宇部市

グリーンスローモビリティ
 停留所



① トキスマ



② 佐藤クリニック



③ 浅山眼科



④ ANAホテル



⑤ 松島町
 (京屋書店前)



⑥ ウエスタまるき



⑦ 記念病院



⑧ 宇部新川駅



⑨ 平和通り
 (珈琲店じゃがいも前)



⑩ 宇部中央バス停



⑪ 図書館



⑫ 市役所



⑬ 新天町



⑭ 東本町二丁目
 (旧堀辺旅館前)



⑮ 田村歯科

7

【 3 実証調査の詳細 】
 【 3.2 運用方法 】

山口県 宇部市

運用方法

- 1) 運行場所/ 市内中心市街地
- 2) 運行台数/ eCOM-8 (1台)
- 3) 運行日/ 10月31日(木曜日)から11月12日(火曜日)の13日間
 ※10月30日(水曜日)14時から報道機関を対象とした試乗会を実施
 ※11月3日(日曜日)の「宇部まつり」では普及啓発として展示のみ実施(運休)
- 4) 運行時間帯/ 9:00~15:40
- 5) 運行形態/ 1周40分循環型の路線定期
- 6) 運行確認/ バスロケーションシステム(スマートホン対応)
- 7) 運転手/ 交通局の運転員 ※安全講習は総合戦略局職員も受講し、不測の事態に対応する。
- 8) 利用者の確保方法/ 地域・保健福祉チームによる事前周知と利用者確保、百貨店跡地での魅力的なマルシェ開催、観光シティプロモーション推進部による観光関係事業者等への周知

8

運用方法

- 9) 車庫の設置場所/ 常盤町1丁目スマイルマーケット（山口県宇部市常盤町一丁目6番30号）
 ※市の保有施設

<位置図詳細>



運用方法

- 9) 車庫の設置場所/ 常盤町1丁目スマイルマーケット（山口県宇部市常盤町一丁目6番30号）
 ※市の保有施設

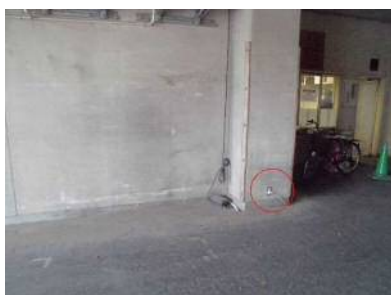
<外観>



<停車場所>

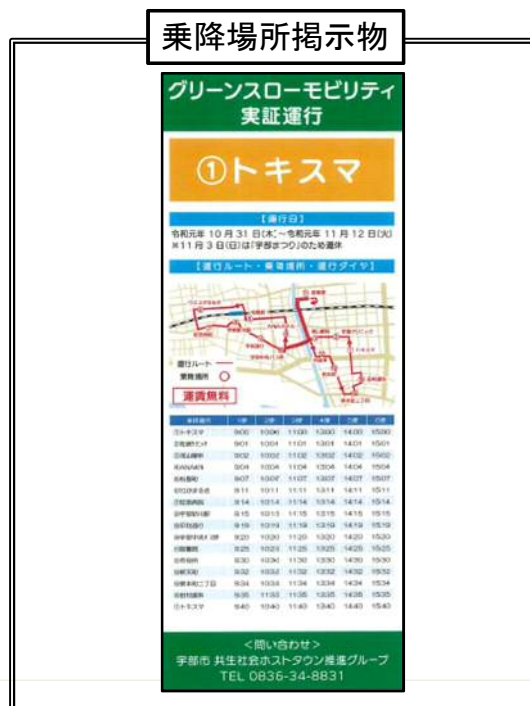


<電源>



運用方法

1 0) 車両及び乗降場所への掲示物 /



運用方法

1 1) 運行管理 /

【宇部市実証調査運行日誌】

宇部市実証調査運行日誌					●月	●日 (●)	天気:	最低気温:	最高気温:																															
No	運行予定			運行回数	乗降箇所 (上段: 乗車 / 下段: 降車)																		特記事項 (車両故障、運行状況、乗客のアンケート)																	
	発着時刻	到着時刻	出発時刻 (上段) / 到着時刻 (下段)		1437	1542	1647	1752	1857	1962	2067	2172	2277	2382	2487	2592	2697	2802	2907	3012	3117	3222		3327																
1	9:00	9:40		0																																				
2	10:00	10:40		0																																				
3	11:00	11:40		0																																				
4	13:00	13:40		0																																				
5	14:00	14:40		0																																				
6	15:00	15:40		0																																				

【 3 実証調査の詳細 】
【 3.2 運用方法 】

運用方法

1 1) 運行管理/

【運行前点検項目】

点検項目	運転者名							
	日(曜日)	日(曜日)	日(曜日)	日(曜日)	日(曜日)	日(曜日)	日(曜日)	日(曜日)
	結果	結果	結果	結果	結果	結果	結果	結果
車の周り								
タイヤの空気圧								
タイヤの亀裂損傷異常な摩耗								
タイヤの溝の深さ								
ランプ類の点灯又は点滅レンズの汚れ及び損傷								
ホデイ、バンパーの損傷								
ブレーキペダルの踏みしるブレーキの動き								
駐車ブレーキ・レバーの引きしる								
モーターコントロールの異常								
モーターの加速、管束状態								
運転席に座って								
ウインド・ウオッシュの状態								
ワイパーの払拭状態								
バッテリーの残量計の状態								
52Vアナログ計の状態								
12Vアナログ計の状態								
ソーラーパネルアナログ計の状態								

【バッテリー交換】

1便 9:00～9:40	※運行中のバッテリー切れを防止するため、午前に1～3便を運行し、3便運行終了後(11:40)に2名でバッテリーの交換を行い、午後4～6便を運行する。
2便 10:00～10:40	
3便 11:00～11:40	
— バッテリー交換 —	
4便 13:00～13:40	
5便 14:00～14:40	
6便 15:00～15:40	

【 3 実証調査の詳細 】
【 3.2 運用方法 】

運用方法

1 2) 運行時刻表/

停留所	1便	2便	3便	4便	5便	6便
① トキスマ	9:00	10:00	11:00	13:00	14:00	15:00
② 佐藤クリニック	9:01	10:01	11:01	13:01	14:01	15:01
③ 浅山眼科	9:02	10:02	11:02	13:02	14:02	15:02
④ ANAホテル	9:04	10:04	11:04	13:04	14:04	15:04
⑤ 松島町 (京屋書店前)	9:07	10:07	11:07	13:07	14:07	15:07
⑥ ウエスタまるき	9:11	10:11	11:11	13:11	14:11	15:11
⑦ 記念病院	9:14	10:14	11:14	13:14	14:14	15:14
⑧ 宇部新川駅	9:15	10:15	11:15	13:15	14:15	15:15

※11月3日(日)の「宇部まつり」では普及活動として展示のみ実施(運行はしない)

運用方法

1 2) 運行時刻表/

停留所	1便	2便	3便	4便	5便	6便
⑨ 平和通り (珈琲店じゃがいも前)	9:19	10:19	11:19	13:19	14:19	15:19
⑩ 宇部中央バス停	9:20	10:20	11:20	13:20	14:20	15:20
⑪ 図書館	9:25	10:25	11:25	13:25	14:25	15:25
⑫ 市役所	9:30	10:30	11:30	13:30	14:30	15:30
⑬ 新天町	9:32	10:32	11:32	13:32	14:32	15:32
⑭ 東本町二丁目 (旧堀辺旅館前)	9:34	10:34	11:34	13:34	14:34	15:34
⑮ 田村歯科	9:35	10:35	11:35	13:35	14:35	15:35
① トキスマ	9:40	10:40	11:40	13:40	14:40	15:40

※11月3日(日)の「宇部まつり」では普及活動として展示のみ実施(運行はしない)

運用方法

1 3) 周知・広報計画/

①9月29日～11月24日の期間にときわ公園で開催される「第28回UBEビエンナーレ(現代日本彫刻展)」や「まちなかアートフェスタ」の会場などで、グリーンスローモビリティの周知・広報活動を行う。



運用方法

1 4) 効果検証/

a) アンケートの実施：車両に調査員 1 人が同乗し、アンケート用紙の配布及び回収を行う

グリーンスローモビリティ利用者アンケート調査

本日は、グリーンスローモビリティをご活用頂きありがとうございました。
 以下、アンケートへのご協力をお願いいたします。

問1 あなたご自身のことについて、記載ください。

(1) 性別/年齢 ① 男性 / ② 女性 / () 歳

(2) お住まい ① ●●市()町 ② ●●市以外

(3) 自動車普通運転免許をお持ちですか？
 ① 持っている ② 持っていない ③ 持っていたが返納した

(4) 現在、ご自宅に自動車をお持ちですか？
 ① 自由に使える車がある ② 車はあるが自由には使えない
 ③ 自動車はあるが使わない ④ 自宅に車がない

問2 グリーンスローモビリティの利用回数と利用した理由

(1) 利用回数
 ① はじめて ② 2回目 ③ 3回目以上()回目

(2) 利用した理由
 ① 目的地に行くのに便利だから ② 低速で安全だから
 ③ 今までに無い乗り物で興味があるから ④ 家族・友人等に誘われたから
 ⑤ 快適だから ⑥ その他()

問3 外出の目的地について、該当する番号に○をつけてください。

(1) 本日の利用目的は何ですか？
 ① 病院(通院・見舞等) ② 日用品等の買い物 ③ 趣味・習いごと
 ④ 家族・親類の家 ⑤ 通勤・通学 ⑥ 仕事
 ⑦ 暮らしの用事(役場、銀行、サロン等) ⑧ 試しに利用した
 ⑨ その他()

(2) 普段の交通手段はなんですか？
 ① 徒歩 ② 自動車(同乗) ③ 自動車(自分で運転)
 ④ 路線バス・電車 ⑤ タクシー ⑥ 自転車

⑦ シニアカー ⑧ その他()

問4 グリーンスローモビリティの満足度はどうですか？
 ① 満足 ② どちらかといえば満足
 ③ どちらでもない ④ どちらかといえば不満
 ⑤ 不満

選択した理由()

問5 グリーンスローモビリティは地域に必要な乗り物だと思いますか。
 ① 必要 ② 実証実験の運行内容を見直せば必要
 (見直す箇所:)
 ③ 将来的には必要 ④ 必要ない
 ⑤ その他()

問6 グリーンスローモビリティの実証実験はどこで知りましたか。
 ① HP ② チラシ ③ 広報紙
 ④ テレビ・ラジオ ⑤ 知人からの情報提供
 ⑥ その他()

問7 来年度以降の本格運行についてご意見をお聞かせください。
 (1) 有料でも利用しますか
 ① 利用する ② 利用しない ③ わからない
 (2) 有料でも利用する場合、1回いくらまで支払うことができますか。
 ① 100円/回 ② 150円/回 ③ 200円/回
 ④ 250円/回 ⑤ 300円以上 ⑥ 利用しない
 (3) 有料でも利用する場合、どれくらい利用しますか
 ① 毎日 ② 週2~3回 ③ 週1回
 ④ 月2~3回 ⑤ 月1回 ⑥ 利用しない

問8 グリーンスローモビリティについて、ご意見・ご要望をお聞かせください。

 協力ありがとうございました

運用方法

1 4) 効果検証/

b) ドライブレコーダー設置：ドライブレコーダーを車両の前方及び後方に設置することにより、事故等のトラブルが起きた際の正確な状況把握を行う。また、通常走行中における一般車両の追い越しや車間距離の状況、低速走行による渋滞発生状況等を記録し、市街地でのグリーンスローモビリティの運行にかかる安全性等の検証材料とする。

運用方法

15) その他/

SDGs 未来都市・共生社会ホストタウン ラッピング

車体の左右両サイドに、「SDGs 未来都市UBE」及び「共生社会ホストタウンUBE」の普及啓発パネルの掲示

【ラッピングイメージ】



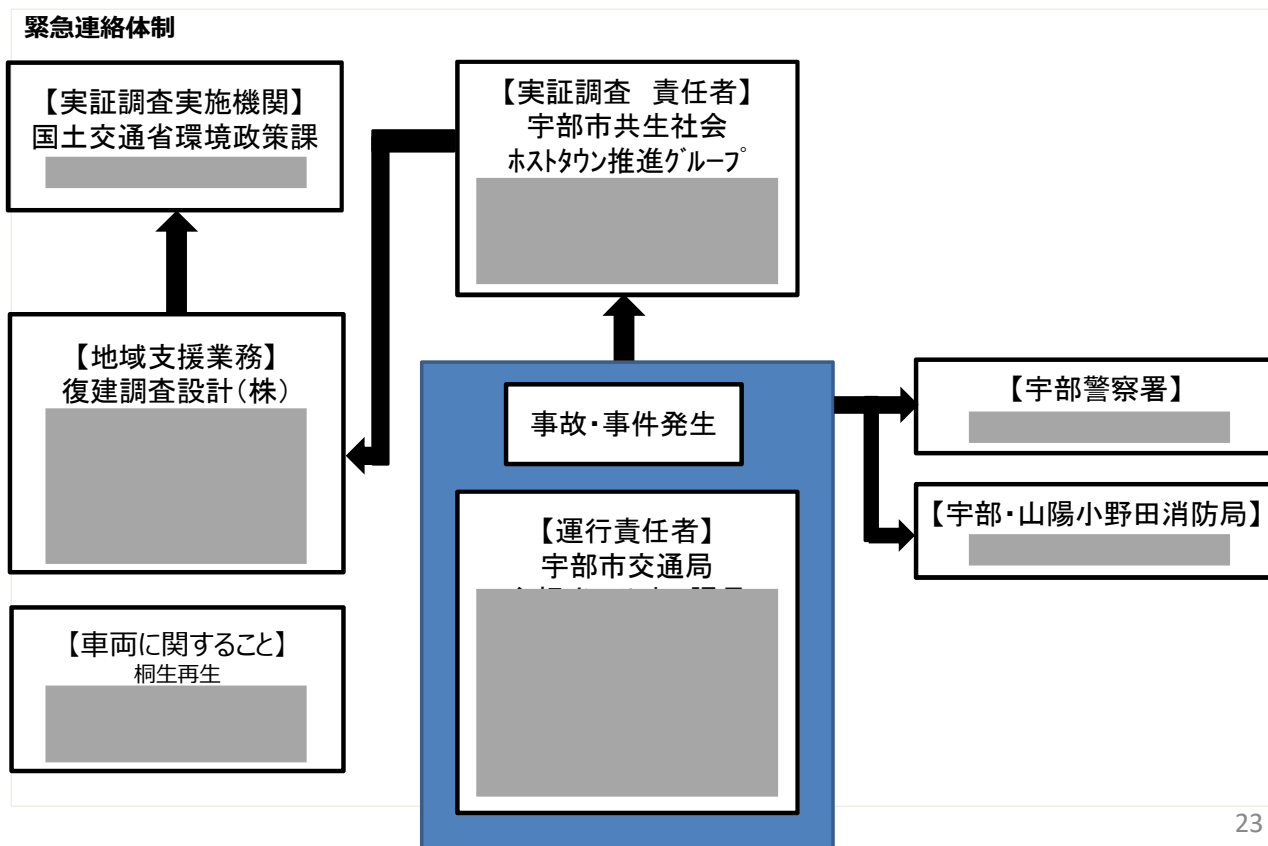
実施体制

団体名	役割
宇部市	実証調査責任者、関係各所との調整
宇部市交通局	運行管理、運転手人材の輩出、運行情報システムの提供
共生社会ホストタウン推進G 地域支援チーム	地域住民に関する情報提供、広報支援
高齢者総合支援課	高齢者に関する情報提供、広報支援
中心市街地にぎわい創出推進G	百貨店跡地マルシェ開催・商業機能に関する支援、広報支援

地方公共団体内での役割分担

所属名・担当者名	役割
共生社会ホストタウン推進G []	実証調査責任者
共生社会ホストタウン推進G []	運行ルート、駐車場所の調整
共生社会ホストタウン推進G []	警察・運輸局・交通事業者・社会福祉協議会との調整
共生社会ホストタウン推進G []	医療機関との調整、地元住民団体との調整
道路整備課 []	道路管理者として協議

【 3 実証調査の詳細 】
 【 3.3 実施体制 】



【 3 実証調査の詳細 】
 【 3.4 関係機関との調整状況 】

		団体名	実証調査の調整状況	事業化に対する協力意向	備考
公共交通機関等	電車	西日本旅客鉄道株式会社	①同意済 ②相談中 ③今後実施	①あり ②実証結果で判断 ③なし ④未確認	
	バス	宇部市交通局	①同意済 ②相談中 ③今後実施	①あり ②実証結果で判断 ③なし ④未確認	
	タクシー	宇部地区タクシー協会	①同意済 ②相談中 ③今後実施	①あり ②実証結果で判断 ③なし ④未確認	
行政	道路管理者	宇部市都市整備部道路整備課	①同意済 ②相談中 ③今後実施	①あり ②実証結果で判断 ③なし ④未確認	
	地方運輸局・支局	山口運輸支局	①同意済 ②相談中 ③今後実施	①あり ②実証結果で判断 ③なし ④未確認	
	警察	宇部警察署	①同意済 ②相談中 ③今後実施	①あり ②実証結果で判断 ③なし ④未確認	
	ときわ公園	ときわ公園課	①同意済 ②相談中 ③今後実施	①あり ②実証結果で判断 ③なし ④未確認	

【 3 実証調査の詳細 】
 【 3.4 関係機関との調整状況 】

		団体名		実証調査の調整状況		事業化に対する協力意向		備考	
その他	医療機関	病院・クリニック		①同意済 ③今後実施	②相談中	①あり ③なし	②実証結果で判断 ④未確認		
	商業施設等	ウエスタまるき小松原通り店		①同意済 ③今後実施	②相談中	①あり ③なし	②実証結果で判断 ④未確認		
	地域住民	神原・新川・小羽山地区住民		①同意済 ③今後実施	②相談中	①あり ③なし	②実証結果で判断 ④未確認		

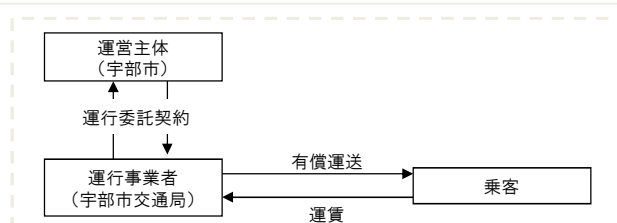
【 3 実証調査の詳細 】
 【 3.5 事業化に向けた検討 】

1) 構想の実現に向けた中長期のロードマップ

実施内容	平成30年度	令和元年度				令和2年度	...
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期		
実証実験庁内関係課協議							
宇部市交通創造コンソーシアムでの検討							
関係機関との調整、住民アンケート、ルート最終決定、実証調査周知							
実証調査実施、事後アンケート							
宇部市交通創造コンソーシアムでの検証、改善点整理							
2020年度予算計上・有料実証事業準備							
令和2年度実証事業申請							
有料実証事業実施							

2) 事業化後の事業スキーム

《事業化の際の道路運送法上の区分》
 宇部市交通局による乗合バス事業で実施予定



SDGs 未来都市選定



平成30年6月にSDGs未来都市に全国29自治体の一つとして選定されたことを受け、同年8月に策定した「SDGs未来都市計画」において、宇部市のまちづくりの基礎として地域に受け継がれてきた宇部方式の精神である「共存同栄・協同一致」を基調に、多様な主体の連携と、地域の「人財」の育成・活躍促進を図るとともに、ICT、IoTを有効に活用したデジタル革命を産業や地域づくりで積極的に展開していくことで、持続可能なまちづくりを目指すこととしている。

本市のSDGs未来都市選定（H30.6.15）

- ・内閣府は、自治体によるSDGsの達成に向けた取組を公募。
- ・優れた取組を提案する29都市を「SDGs未来都市」とし、本市も選定される。

「人財が宝」みんなで作る宇部市SDGs推進事業

～SDGs未来都市として目指す5つのイメージ～

- ① 産業力強化・イノベーション創出のまち
- ② 生きる力を育み、子どもの未来が輝くまち
- ③ 健康長寿のまち
- ④ 共に創る魅力・にぎわいあふれるまち
- ⑤ 安心・安全で、快適に暮らせるまち



令和元年度 グリーンスローモビリティの活用検討に向けた 実証調査支援事業

実施計画書

実証地域	宮崎県宮崎市中心市街地 区域 (交通結節拠点エリアとまちなかのハブエリアを結ぶ区間)
提案者	宮崎市
事業名称	中心市街地の回遊性向上による波及効果を目指した新モビリティ実証調査事業

1

【1 実証調査の背景・目的】

(1) 地域の概況と地域交通の状況

① 実証地域(中心市街地)の概要

- 中心市街地は、シンボルロードである「橋通り」と「高千穂通り」を骨格として、東は「老松通線」、南は大淀川、西は「黒迫通線」、北は「中津瀬通線」に囲まれた、南北約1.5km、東西約1.3km、面積約162haの区域。
- 中心市街地は、郊外型の大型商業施設の立地に伴い、これまで中心産業であった商業機能が郊外に流出し、空洞化傾向にある。そのような中、宮崎駅周辺に民間投資による複合施設が開業予定で、新たなまちの姿を形成するチャンスとなっている。「まちなかのハブエリア」～事業所や商業機能が集積するエリア、宿泊業や飲食サービス業が集積するエリア等をつなぐまちなかのハブとなるエリア。「交通結節拠点エリア」～バスや鉄道などの交通結節拠点であり、宮崎市の玄関口となるエリア。

★令和2年秋に宮崎駅西口に複合施設(アミュプラザ宮崎)が開業予定で、開業に合わせてGSM実装を検討している。※【3.6 その他】参照

② 実証地域の地域特性(都市施設の立地状況)や道路状況

都市施設	商業施設(山形屋、ボンベルタ橋、カーノ宮崎)、商店街(宮崎駅前、若草通り、ハイカラ通り、四季通り、一番街等)、文化施設(みやざきアートセンター)、立体駐車場(Y・Yパーク)、官公庁(宮崎県庁、宮崎市役所、〈国〉宮崎合同庁舎 等) ※詳細は、【3.1 運用エリア】参照
道路状況	主要道路(橋通線、高千穂通線、錦町通線、老松通線、本町通線) 宮崎駅から臨港通線に接続する宮崎駅東通線が令和7年頃開通予定

③ 地域の公共交通(電車、バス、タクシー)の充足状況

電車	JR日豊本線宮崎駅があり、同駅は宮崎県内で最も乗降客数が多い。拠点となる駅で利便性は高い。(平均乗降客数9,641人/日,H28末)※1
バス	地域内の交通結節点のひとつである宮崎駅を発着する路線バスの割合は、本市内を走行する路線バスのおよそ45%を占めており、利便性は高い。
タクシー	本市内では、12社のタクシー会社が営業を行っており、宮崎駅にはタクシーの待機所があるなど、利便性は高い。

(宮崎市まちなか活性化推進計画より抜粋)



※1 (出典)平成28年都市計画現況調査

2

【1 実証調査の背景・目的】

(2) 地域の課題と解決に向けた方向性

① 実証地域が抱える課題

類似市と比較し、公共交通の分担率が低く自動車が高いことから、公共交通の利用低下による交通事業者の収支の悪化が想定され、現在利便性の高い中心市街地でも減路線や減便が進む可能性がある。また、宮崎駅と「まちなか」の距離があることで自家用車へ依存し、まちを回遊しない状況があるため、回遊性を向上させ、駅と「まちなか」が面的に活性化することで、公共交通の利用促進にも繋げることが求められる。

平成29年度都市モニタリングシート	宮崎市	類似市
通勤・通学の鉄道とバスの分担率(%)	4.7	11.4
通勤・通学の自動車の分担率(%)	63.8	57.2

※類似市：人口40万人超～70万人以下の都市の平均値

- 公共交通の利用促進
- 自家用車に過度に依存しないシステム構築
- 来街者の利便性向上

公共交通を補完する交通手段の確保

市全体と比較して、**居住者(夜間人口)**が増加し、**年少人口・老年人口**ともに増加(子育て世代、高齢者の増加)している。一方で、回遊性が低いことから、商店街等への経済波及が低い。

H23と比較したH30の人口増加率(住基)	中心市街地	市全体
総数の増加率(%)	11.5	△0.1
年少人口の増加率(%)	6.8	△4.2
生産年齢人口の増加率(%)	6.9	△8.0
老年人口の増加率(%)	27.3	26.9

(出典)宮崎市作成資料

- 人口増の効果をエリアに波及させる仕組み
- 多世代に効果のある回遊性向上施策

物理的な回遊性を向上させる施策

② 課題を解決するための方向性

➤宮崎駅周辺(交通結節拠点)と「まちなか」をつなぐ、**ファーストワンマイル・ラストワンマイル交通の確保による回遊性向上**
 ～(ファーストワンマイルとしては)中心市街地に増加する居住者(子育て世代、高齢者を中心とした多世代)が、移動の際の公共交通への接続としてグリーンスローモビリティを活用する。
 (ラストワンマイルとしては)交通結節拠点である宮崎駅周辺まで公共交通を活用し、そこから商店街や百貨店の集積する「まちなか」への移動手段としてグリーンスローモビリティを活用する。
 このことで、回遊性向上と、公共交通の利用促進、自家用車に過度に依存しないシステムの構築に繋げる。

③ グリーンスローモビリティの優位性

- 「Green」～排ガスや音も出さないため、中心市街地の商店街や歩行者等の環境に与える影響が少ない。
- 「Slow」～信号が多く、歩行者もいるため、速度が遅いことが重要で、そのことにより街の景色が目に入り、新しい店舗等の発見にも繋がる。
- 「Safety」～歩行者が多い区間でも安全性が高く、高齢者も運転しやすいことが、高齢者の社会参加にも繋がる。
- 「Small」～幅員の狭い商店街の中を走行するので、機動性と街の景観を損ねないコンパクトな車体サイズであることが必要。
- 「Open」～低床車両で、高齢者や子供連れでも利用しやすく、窓がないことは街の空気感や人の息吹をダイレクトに体感でき、都市の魅力向上、都市ブランディング、観光誘客に繋がる。

④ 上位計画との関係性

- 「宮崎市まちなか活性化推進計画」(平成30年3月作成)の重点項目で「アクセス利便性と回遊性の向上」を掲げている。
- 本年度策定予定の「宮崎市地域公共交通網形成計画」にも、実証調査の結果を受けて位置付けを検討する。
- 「中心市街地の回遊性向上施策」は本年度の市の重点項目。

3

【2 実証調査の概要】

中心市街地の回遊性向上による波及効果を目指した新モビリティ実証調査事業

(1) 実証調査の全体像

① グリーンスローモビリティの活用により目指す将来像

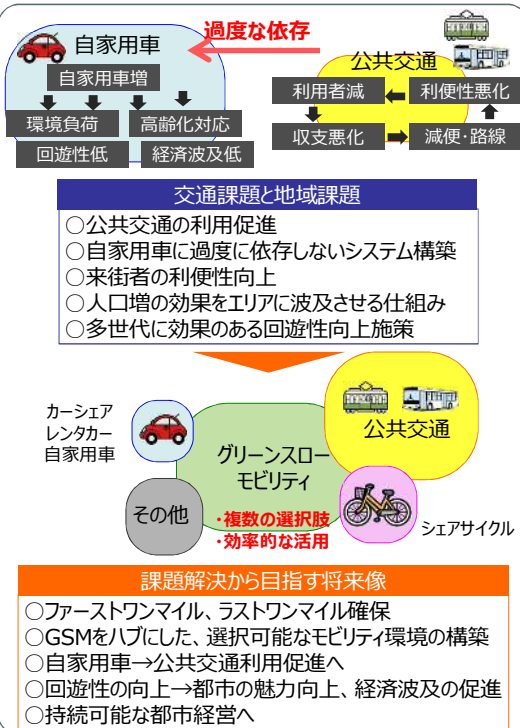
- 選択可能なモビリティ環境の構築 ～公共交通、自家用車、その他モビリティの効率的な活用
- 回遊性の向上により、都市の魅力向上と経済波及の促進 ～持続可能な都市経営

② グリーンスローモビリティ実証調査事業の概要

- 本実証調査支援事業を活用して車両を1台確保し、市予算で車両を1台確保し、2台体制で実証調査を実施する。
- ※市予算は、本事業採択後、9月補正予算で要求予定で財政担当、市長まで調整済。
- ※市予算で確保する車両は、(株)桐生再生から確保可能との回答あり(時期等は要調整)。

コンセプト	「乗って楽しい」「見て楽しい」そして「便利」な「まちなか回遊モビリティ」 宮崎駅周辺(交通結節拠点)と「まちなか」をつなぐ区間を、開放感があり街の空気感や人の息吹が感じられる「乗って楽しい」、そして「見て楽しい」モビリティで運行することで、まちなかの回遊性を向上させる。
実施内容	運行ルート まちなか周遊コース(一周約1.2km)
	運行形態 定時定路線型運行(一周約20分、約10分間隔運用) ※実証調査事業で1台確保、市予算で1台レンタルの計2台で運行。
	実施体制 市が中心となり実証調査を実施
運転手	宮崎交通株式会社に委託して運転手を確保 ※シルバー人材センターへの委託により、利用者へのアンケート調査や乗務の誘導(声掛け)等を行うスタッフを確保する。
検証項目	○公共交通及び道路運行への影響(渋滞、公共交通利用者の変化等) ○実装した場合のコース設定、料金(無償か有償か、有償の場合は金額)、利用者の潜在的なニーズ ○周辺の商店街や大規模小売店舗(百貨店等)に与える波及効果
期待される成果	○実装に向けた課題明確化と有効性や可能性が検証でき、実現性が高まる。 ○実装に向けて、関係機関や商店街等の連携・協力体制が強固になる。

③ 地域の交通課題解決のイメージ



4

【2 実証調査の概要】

中心市街地の回遊性向上による波及効果を目指した新モビリティ実証調査事業

(2) 実証調査により実現を目指す地域交通の将来像

① 将来の都市構造の基本的な考え方

本市においては、「中核拠点」(中枢となる商業・業務機能が集積した市中心部)及び「地域拠点」(周辺4地域の中心部)を中心に、「文化・歴史」「学術・医療」「観光・リゾート」等、特化した機能を持つ各種都市拠点が、道路及び公共交通による都市軸によって機能的・広域的に連携する『多拠点ネットワーク型コンパクトシティ』の都市構造の実現を目指している。

■各地域の総合的な位置付け・連携のイメージ



※(出典)宮崎市都市計画マスタープラン

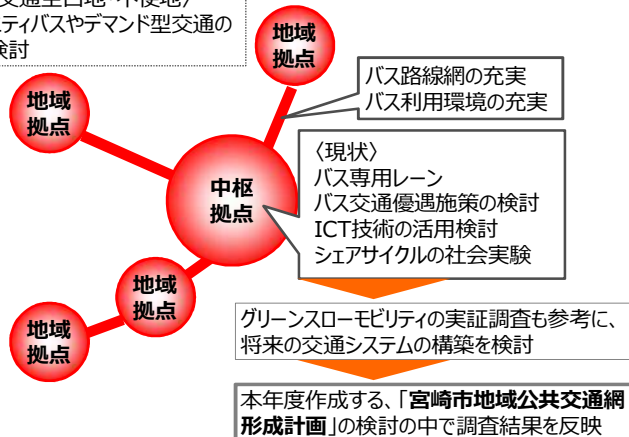
② 都市構造の実現に向けた地域交通の将来

【基本的な考え方】

持続可能な公共交通等の確立

- 自動車に過度に依存しない、人と環境にやさしいまちづくり
- まちなか居住や中心市街地活性化の促進に努め、まちなかの人口密度の維持、交流人口の拡大を促進するとともに、交通事業者や関係機関等とも連携しながら、公共交通の利便性の向上、利用環境の充実に取り組む
- 公共交通空白地や不便地については、コミュニティバスやデマンド型交通の導入など、地域の実情に即し、地域公共交通のあり方を検討する

〈公共交通空白地・不便地〉
コミュニティバスやデマンド型交通の導入検討

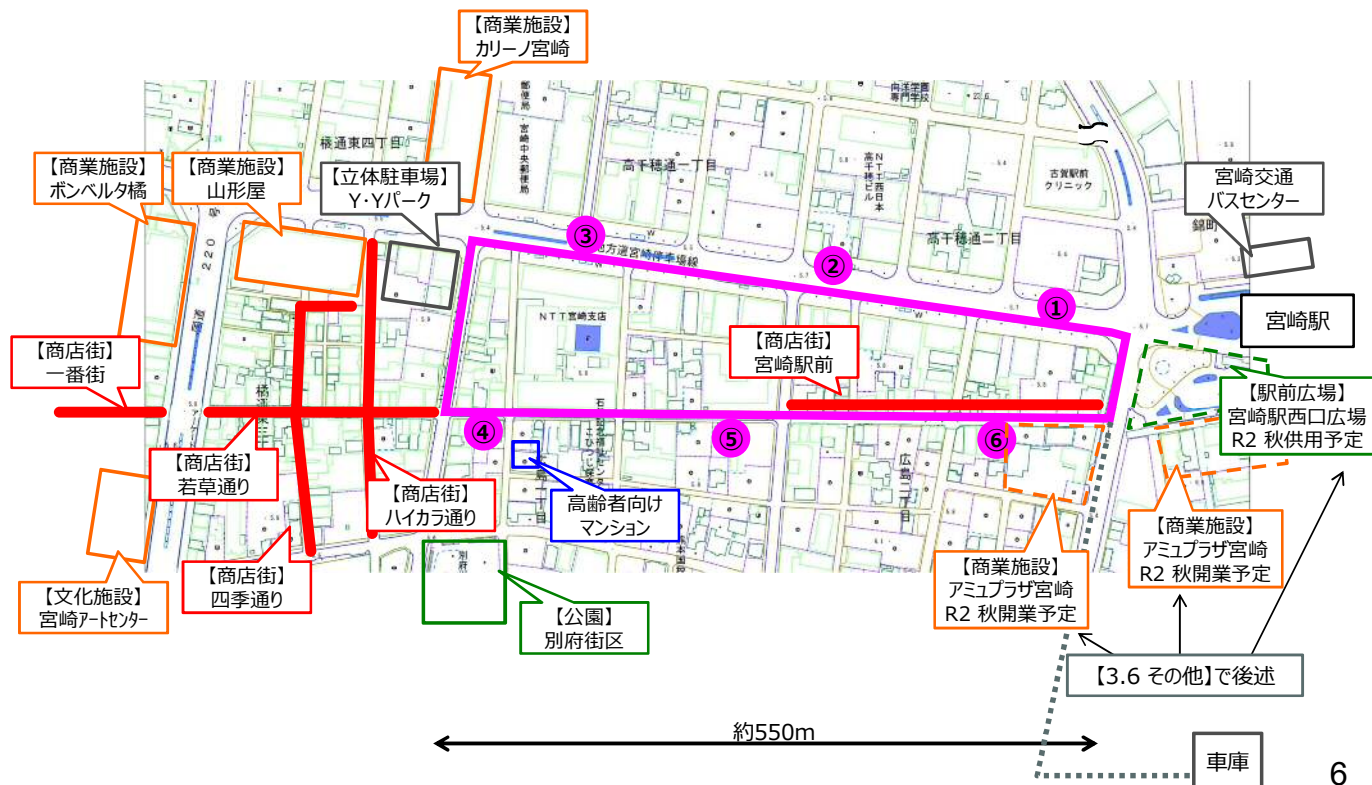


5

【3 実証調査の詳細】

【3.1 運用エリア】

(1) 運用エリア

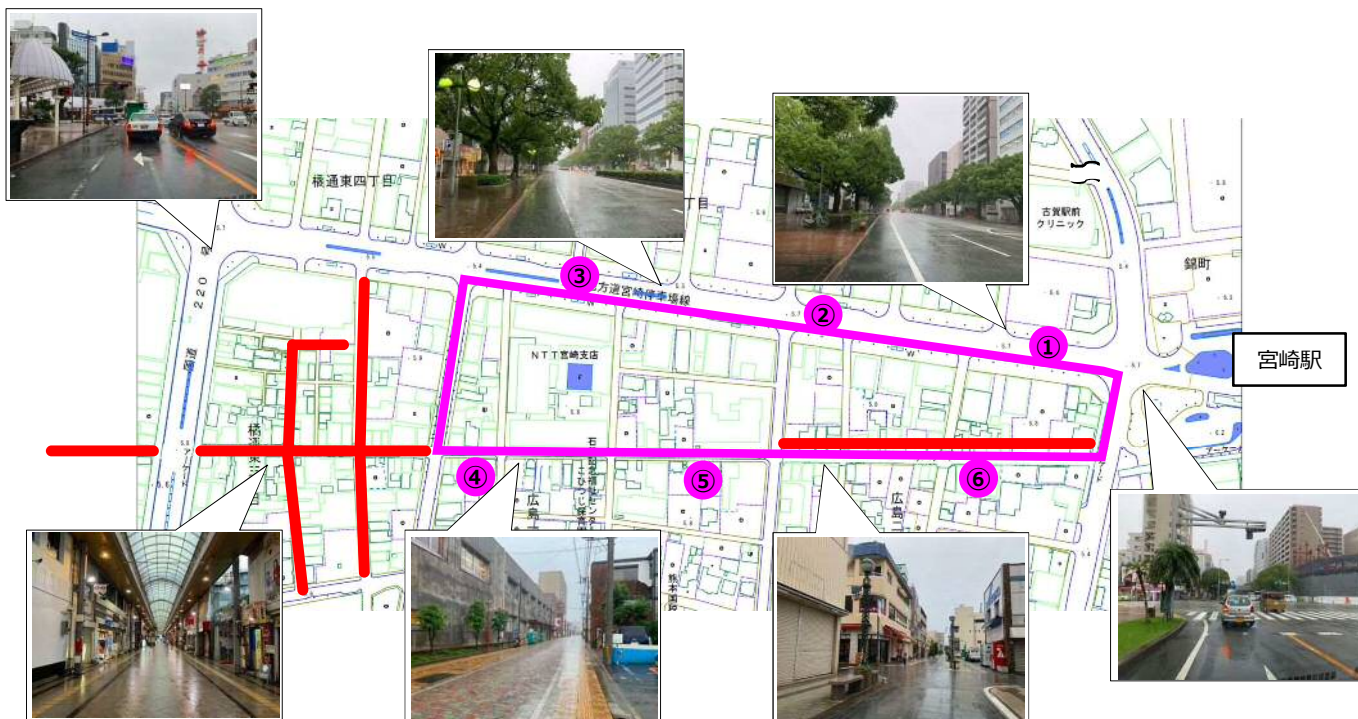


6

【3 実証調査の詳細】

【3.1 運用エリア】

(1) 運用エリア(状況写真)



7

【3 実証調査の詳細】

【3.2 運用方法】

(2) 運用方法の詳細

運行期間	令和元年11月29日(金)～12月15日(日) 17日間 ※期間中のイベント等 12月8日(日) 青島太平洋マラソン2019
運行台数	eCOM-8 2台で運行 ※1台を実証調査支援事業(国土交通省)で確保し、もう一台は市予算(9月補正予算)で、(株)桐生再生からレンタルする
運行時間帯	10時～18時の8時間運行(運行状況よりバッテリーを交換して対応する)
運行ルート	まちなか周遊コース(一周約1.2km)
運行形態	定時定路線型運行(一周約20分、約10分間隔運用)
料金	無償(「許可等を要しない運行の形態」で運行予定)
実施体制	市が中心となり実証調査を実施
運転手	宮崎交通株式会社に委託して運転手を確保 ※シルバー人材センターへの委託により、利用者へのアンケート調査や乗務の誘導(声掛け)等を行うスタッフを確保する。
検証項目	○公共交通及び道路運行への影響(渋滞、公共交通利用者の変化等) ○実装した場合のコース設定、料金(無償か有償か、有償の場合は金額)、利用者の潜在的なニーズ ○周辺の商店街や大規模小売店舗(百貨店等)に与える波及効果
期待される成果	○実装に向けた課題明確化と有効性や可能性が検証でき、実現性が高まる。 ○実装に向けて、関係機関や商店街等の連携・協力体制が強固になる。

8

【3 実証調査の詳細】

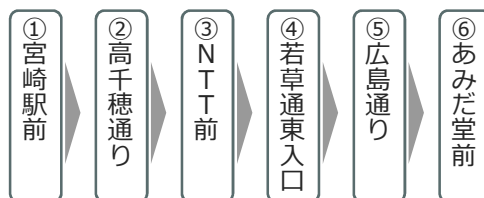
【3.2 運用方法】

(3) 運用ダイヤ

	停留所①	停留所②	停留所③	停留所④	停留所⑤	停留所⑥
10時台	00 10 20 30 40 50	01 11 21 31 41 51	05 15 25 35 45 55	10 20 30 40 50	11 21 31 41 51	14 24 34 44 54
11時台	00 10 20 30 40 50	01 11 21 31 41 51	05 15 25 35 45 55	00 10 20 30 40 50	01 11 21 31 41 51	04 14 24 34 44 54
12時台	00 10 20 30 40 50	01 11 21 31 41 51	05 15 25 35 45 55	00 10 20 30 40 50	01 11 21 31 41 51	04 14 24 34 44 54
13時台	00 10 20 30 40 50	01 11 21 31 41 51	05 15 25 35 45 55	00 10 20 30 40 50	01 11 21 31 41 51	04 14 24 34 44 54
14時台	00 10 20 30 40 50	01 11 21 31 41 51	05 15 25 35 45 55	00 10 20 30 40 50	01 11 21 31 41 51	04 14 24 34 44 54
15時台	00 10 20 30 40 50	01 11 21 31 41 51	05 15 25 35 45 55	00 10 20 30 40 50	01 11 21 31 41 51	04 14 24 34 44 54
16時台	00 10 20 30 40 50	01 11 21 31 41 51	05 15 25 35 45 55	00 10 20 30 40 50	01 11 21 31 41 51	04 14 24 34 44 54
17時台	00 10 20 30 40	01 11 21 31 41	05 15 25 35 45	00 10 20 30 40 50	01 11 21 31 41 51	04 14 24 34 44 54



※黒文字が1号車、赤文字が2号車
 ※運行ダイヤは目安とし、約10分間隔で運行する。
 ※途中、バッテリー交換等で時間が変更になる可能性があるため、詳細な時刻表は示さない。



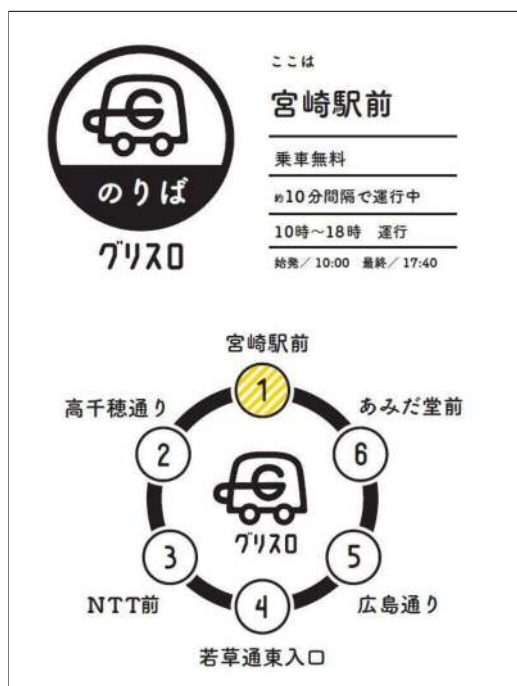
9

【3 実証調査の詳細】

【3.2 運用方法】

(4) 停留場所標示と乗車チケット

① 停留場所の標示



② 乗車チケット(案)



○グリーンローモビリティに乗車した方に、乗車チケットを配布する。
 ○乗降客数増加と、アンケート回収率を高めるために、中心商店街や大型店等で組織する、Doまんなかモール委員会を中心として、グリーンローモビリティ連携企画を運用する。「(5)利用者の確保方法と検証について」参照
 その他、乗車チケットのみでの特典等も企画する。
 例)TSUTAYAのレンタルDVD一人1本無料
 アートセンター(文化施設)のコナン展当日券100円引き 等

10

【3 実証調査の詳細】

【3.2 運用方法】

(5) 利用者の確保方法と検証について

① 広報方法

全世帯	<ul style="list-style-type: none"> ・11月15日 宮崎市内の自治会加入世帯にチラシを班回覧(12,000部) ・中心エリア周辺の小学校、保育園、幼稚園全員にチラシ配布(約6,000部) ・民生委員児童委員協議会へのチラシ配布と説明 ・市ホームページ及び関係機関ホームページ等に掲載 ・独自SNS(インスタグラム、フェイスブック)アカウントを開設し、広報を実施 ・市SNS(フェイスブック、ツイッター、インスタグラム、ライン)で事前告知及び実証調査中の広報を実施
マスコミ	<ul style="list-style-type: none"> ・11月5日(木) 市長定例記者会見での記者発表 ・テレビ、ラジオ、新聞等へのニュースリリース等を実施
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・実証調査中の車両に、運転手と別にスタッフ1名を同乗させ、アンケート実施と乗務誘導(声掛け等)を行う ・実証調査開始時に、周辺の保育園等と連携したオープニングセレモニーを実施 ・周辺の商業施設や商店街等にも配布用のチラシを設置する

関係者による検証組織を立ち上げ、検証組織で総合的な検証を実施

② 主な検証方法

交通状況調査	<ul style="list-style-type: none"> ・実証調査中の車両に、調査スタッフを各1名同乗させ、交通渋滞の状況や交通への影響を目視にて調査 ・車両1台にドライブレコーダーを設置し、交通状況を映像で確認
乗降者数調査	実証調査中の車両2台に、各1名調査スタッフを同乗させ、各ポイント別、時間別の乗降者数を調査する
乗降者アンケート	特に乗降客の多い停留場所にスタッフ(市職員)を配置し、アンケートを実施する
バスへの影響調査	宮崎交通と連携し、実証調査前、実証調査中、実証調査後のバス乗降客数の変化を調査する
商店街等への波及効果	周辺の商業施設や商店街等と連携し、実証調査前、実証調査中、実証調査後の来店者数の変化や、来店者の反応等についてアンケート調査を実施する

【3 実証調査の詳細】

【3.2 運用方法】

利用者アンケート

グリーンスローモビリティ(以下「グリスロ」といいます)をご利用頂きありがとうございました。
※アンケートへの協力をお願いします。

問1 アンケートに記入いただく方についてお教えてください。(※それぞれ一つ選択)

① 性別 ①男性 ②女性

② 年齢 ①10歳以下 ②20歳代 ③30歳代 ④40歳代 ⑤50歳代
 ⑥60歳代 ⑦70歳代 ⑧80歳代以上

③ お住まい ①市内 ②市外(県内) ③県外

④ 運転免許をお持ちですか ①持っている ②持っていない ③運転した

⑤ 自宅に自動車をお持ちですか ①自分で運転できる車がある ②車はあるが自分では運転できない ③車がない

問2 乗った場所と降りた場所、グリスロに乗った時間をお教えてください。

① 乗った場所(一つ選択)
 ①宮崎駅前 ②高千穂通り ③NTT前 ④若草通東入口
 ⑤宮崎駅前 ⑥あみだ堂前

② 降りた場所(一つ選択)
 ①宮崎駅前 ②高千穂通り ③NTT前 ④若草通東入口
 ⑤宮崎駅前 ⑥あみだ堂前

③ 乗った時間帯(一つ選択)
 ①10時台 ②11時台 ③12時台 ④13時台
 ⑤14時台 ⑥15時台 ⑦17時台 ⑧18時台

問3 グリスロに乗るのは何回目、利用した理由は何ですか。

① 利用回数(一つ選択)
 ①はじめて ②2回目 ③3回目以上()回目

② 利用目的(複数選択可)
 ①興味がある ②無料だから ③便利だから ④低速で安全だから
 ⑤家族・友人等に誘われたから ⑥楽しそうだから
 ⑦その他()

問4 外出の目的について、該当する番号に○をつけてください。

① 本日の利用目的は何ですか(一つ選択)
 ①買い物 ②仕事 ③通勤・通学 ④試しに利用した
 ⑤暮らしの用事(銀行、市役所(本庁舎)、美容室等) ⑥趣味・遊び等
 ⑦病院(通院・見舞い等) ⑧家族・親類の家
 ⑨ その他()

② 普段の主な交通手段は何ですか(一つ選択)
 ①徒歩 ②自転車 ③路線バス ④電車
 ⑤自動車(同乗) ⑥自動車(自分で運転) ⑦タクシー
 ⑧シニアカー ⑨その他()

問5 グリスロの満足度はどうですか。(一つ選択)
 ①満足 ②どちらかといえば満足 ③どちらでもない
 ④どちらかといえば不満 ⑤不満
 一理由があれば()

問6 グリスロは地域に必要な乗り物だと思いますか。(一つ選択)
 ①必要 ②将来的には必要 ③必要ない
 ④実証調査の運行内容を見直しが必要
 ⑤見直す箇所()
 ⑥その他()

問7 グリスロの実証調査はどこで知りましたか。(複数選択可)
 ①HP ②チラシ ③広報紙 ④テレビ・ラジオ
 ⑤知人から ⑥SNS ⑦マス広告
 ⑧その他()

問8 今後の本格運行についてご意見をお聞かせください。

① 有料でも利用しますか。(一つ選択)
 ①利用する ②利用しない ③金額による ④わからない

② 有料でも利用する場合、最大いくらまでなら利用しますか。(一つ選択)
 ①1日100円で乗り放題 ②100円/回 ③150円/回
 ④200円/回 ⑤250円/回 ⑥300円/回以上
 ⑦有料なら利用しない

③ 有料でも利用する場合、どのくらい利用しますか。(一つ選択)
 ①毎日 ②週2~3回 ③週1回 ④月2~3回
 ⑤月1回 ⑥利用しない

④ 今回の実証調査の運行コースはいかがですか。(一つ選択)
 ①このままで良い ②変更したらもっと利用する
 ③変更内容()

問9 グリーンスローモビリティについて、ご意見・ご要望をお聞かせください。

【3 実証調査の詳細】

【3.2 運用方法】

運行日誌

日付 (月 日)		氏名 ()					
【車両】	ロブルー	ログリーン	※車両の色をチェックしてください。				
	⑥あみだ堂前	①宮崎駅前	②高千穂通り	③NTT前	④若草通東入口	⑤広島通り	⑥あみだ堂前
着時間		:	:	:	:	:	計
降車人数		人	人	人	人	人	人
乗車人数		人	人	人	人	人	人
発時間	:	:	:	:	:	:	
出発時距離	. km		到着時距離	. km			
特記事項	※車両故障、遅延状況、乗客からの要望、ヒアリングなど						

日付 (月 日)		氏名 ()					
【車両】	ロブルー	ログリーン	※車両の色をチェックしてください。				
	⑥あみだ堂前	①宮崎駅前	②高千穂通り	③NTT前	④若草通東入口	⑤広島通り	⑥あみだ堂前
着時間		:	:	:	:	:	計
降車人数		人	人	人	人	人	人
乗車人数		人	人	人	人	人	人
発時間	:	:	:	:	:	:	
出発時距離	. km		到着時距離	. km			
特記事項	※車両故障、遅延状況、乗客からの要望、ヒアリングなど						

13

【3 実証調査の詳細】

【3.2 運用方法】

(5) 利用者の確保方法と検証について

③ その他乗降客増加と検証効果を上げる取組

主催	Doまんなかモール委員 (中心商店街と大型店で構成するまちづくり団体) ※宮崎市は協力のみ
趣旨	宮崎市が実施するグリーンスローモビリティ実証調査に合わせて、より回遊性を高めるためにまちなかと連動した取組を行う。
目的	①グリーンスローモビリティ運行コースから商店街への誘導につなげる ②子どもたちを含めた若い世代に利用してもらう ③店舗等の発見、認知度を高める ④グリーンスローモビリティ実証調査の乗降客増加を後押しする
連携企画「クリスマス抽選会」の概要	①乗車チケットを持って、若草通内よってンプラザに誘導。 ②アンケートに回答するとガラガラが1回まわされる。 ③商品は、各商店街、大型店、関係団体等からの協賛 ④当選した場合は、よってンプラザで引換券を渡す。 ⑤すべての商品は、原則としてお店に行き引き換えを行う
主な商品	【カリノ宮崎】任天堂Nintendo Switch Lite 1台、メガネ券(2万円相当)、図書券500円×8枚、女性用スヌード6個 【山形屋】田中達也展招待券×10枚 【M R T micc】無印良品バウムシリーズ×20個 【M R T 宮崎放送】ばんそうこう・ボールペンセット×10セット 【宮崎アートセンター】コナン展招待券×10枚 【若草通商店街】蜂楽饅頭(白黒)×20セット、お菓子(500円分)×8個 【宮崎駅前商店街】商店街商品券500円分×10本 【福田米穀店】選べるお米券(2合)×10本 【D o まんなかモール委員会】駐車券3時間分×20本 【宮崎交通】宮崎交通賞×15本 【J R 九州】J R九州賞×10本 【宮崎市・観光協会】スポーツランド宮崎賞×約20本



14

【3 実証調査の詳細】

【3.3 実施体制】

実施体制

団体名	役割
宮崎市	実証調査責任者、関係各所との調整
株式会社宮崎交通	運行業務の受託
公益社団法人宮崎市シルバー人材センター	検証業務(乗降客数のカウント、乗務誘導等)の受託
宮崎市商店街振興組合連合会	商店街に関する情報提供、広報支援
Doまんなかモール委員会	グリーンスローモビリティ実証調査と連携した企画の運営
宮崎市まちなか活性化推進委員会	実証調査事業の運営方法、検証に関する協議検討組織
宮崎県	関係機関に対する情報提供、実施に関する助言

地方公共団体内での役割分担

所属名・担当者名	役割
観光商工部 商工戦略局 商業労政課	実証調査責任者、商業施策・商業団体等との調整
企画財政部 拠点都市創造課	警察・運輸局・交通事業者との調整支援
建設部 用地管理課、道理維持課	道路管理者として協議、助言
都市整備部 都市計画課	都市計画の視点からの検証、助言

15

【3 実証調査の詳細】

【3.4 関係機関との調整状況】

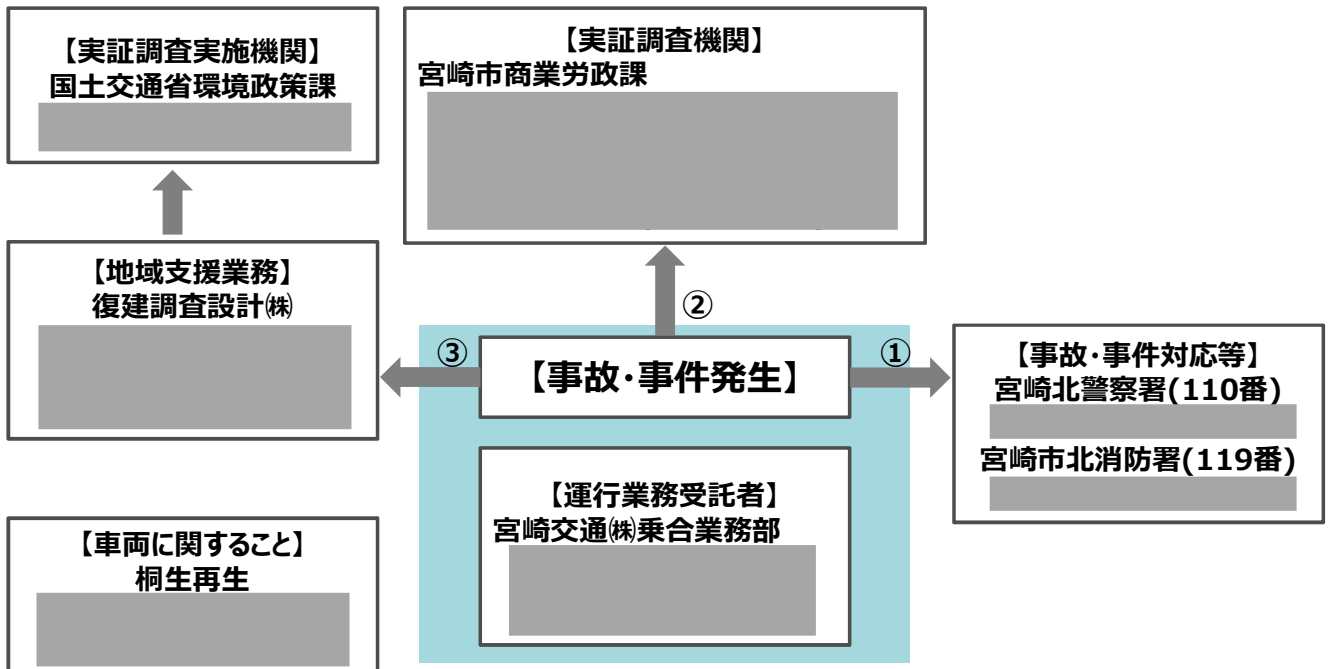
		団体名		実証調査の調整状況	事業化に対する協力意向	備考
公共交通機関等	電車		今回は関係しない	①同意済 ②相談中 ③今後実施	①あり ②実証結果で判断 ③なし ④未確認	
	バス	宮交HD、宮崎交通株		①同意済 ②相談中 ③今後実施	①あり ②実証結果で判断 ③なし ④未確認	運転手人材の輩出
	タクシー	宮崎県タクシー協会宮崎支部		①同意済 ②相談中 ③今後実施	①あり ②実証結果で判断 ③なし ④未確認	
行政	道路管理者	宮崎県、宮崎市		①同意済 ②相談中 ③今後実施	①あり ②実証結果で判断 ③なし ④未確認	
	地方運輸局・支局	宮崎運輸支局		①同意済 ②相談中 ③今後実施	①あり ②実証結果で判断 ③なし ④未確認	
	警察	宮崎県警本部 宮崎北警察署		①同意済 ②相談中 ③今後実施	①あり ②実証結果で判断 ③なし ④未確認	
	関係機関	宮崎河川国道事務所		①同意済 ②相談中 ③今後実施	①あり ②実証結果で判断 ③なし ④未確認	関係機関との調整で協力
その他	経済団体	宮崎商工会議所		①同意済 ②相談中 ③今後実施	①あり ②実証結果で判断 ③なし ④未確認	周知広報等で支援
	商工団体	宮崎市商店街振興組合連合会		①同意済 ②相談中 ③今後実施	①あり ②実証結果で判断 ③なし ④未確認	
	観光協会	公益社団法人 宮崎市観光協会		①同意済 ②相談中 ③今後実施	①あり ②実証結果で判断 ③なし ④未確認	
	福祉施設等		今回は関係しない	①同意済 ②相談中 ③今後実施	①あり ②実証結果で判断 ③なし ④未確認	
	地域住民	宮崎市中央東地域自治区地域協議会		①同意済 ②相談中 ③今後実施	①あり ②実証結果で判断 ③なし ④未確認	
	その他	宮崎市まちなか活性化推進委員会		①同意済 ②相談中 ③今後実施	①あり ②実証結果で判断 ③なし ④未確認	

16

【3 実証調査の詳細】

【3.4 関係機関との調整状況】

緊急連絡先



17

【3 実証調査の詳細】

【3.5 事業化に向けた検討】

(1) 構想の実現に向けた中長期のロードマップ

実施内容	令和元年度			令和2年度				令和3年度～
	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	
実証調査・効果検証・事業化に向けた関係者調整等	[Progress bar]							
実証調査の実施		[Progress bar]						
実証調査結果の検証と事業化に向けた関係者調整等			[Progress bar]					
財源確保に向けた調整			[Progress bar]					
事業化に向けた準備(車両確保、運営体制構築等)			[Progress bar]					
運行開始・効果検証による事業見直し(随時)							[Progress bar]	

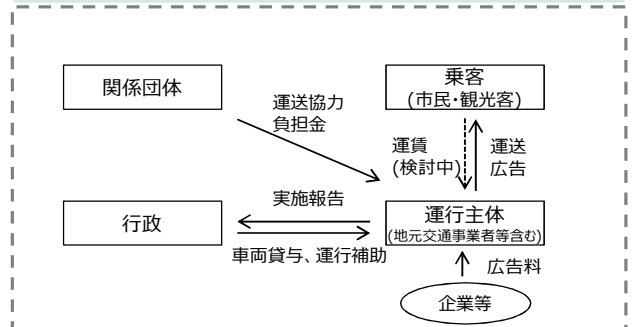
令和2年秋運行開始(目標)

(2) 事業化後の事業スキーム

① 事業概要

運行日	毎日、10時～18時まで
運行ルート	まちなか周遊コース(一周約1.2km) ※宮崎駅周辺と「まちなか」をつなぐルートを想定。
運行台数	e-COM8 3台
運行主体	運行団体を組織する予定 ※行政や地元交通事業者、商業団体等で連携して組織する。
運行形態	定時定路線型運行(一周約17分間、最短約5分間隔)
料金	実証調査の結果から判断 ※必要な費用の一部を関係団体の負担金や広告費で賄う。
事業継続性	行政が支援しつつ、広告費や関係団体の負担金等で経費を賄うなど、持続可能で利便率が高い運営体制を構築する。

② 運営体制図



18

※ロードマップ及び事業スキームは現時点の想定であり、今後関係機関との調整及び実証調査事業の結果を反映して構築します。

【3 実証調査の詳細】

【3.6 その他(※記載は任意)】

(1) 民間投資による宮崎駅西口複合施設開業予定

宮崎駅西口に、九州旅客鉄道(株)と宮崎交通(株)の二者により、商業機能、業務機能、シネマコンプレックス機能等を備えた複合ビル「アミュプラザ宮崎」が令和2年秋に開業予定。→開業のタイミングにあわせてGSM実装を検討中。この複合施設を開業する九州旅客鉄道(株)と宮崎交通(株)も、宮崎駅周辺のにぎわいを「まちなか」につなげる構想をもっている。民間投資を中心市街地のエリア全体に波及させるためにも回遊性の向上は重要になっている。また、今回の複合施設開業に合わせ、県が駅西口広場の再整備も行う予定。

【位置図】



※(出典)平成30年12月18日 九州旅客鉄道(株)及び宮崎交通(株)ニュースリリース

1 今回の取り組み内容

(1) 共同開発の概要

- 建物名称 「JR宮交ツインビル」
- 商業施設名称 「アミュプラザ宮崎」
- 施設の特徴
 - ・ファッション、雑貨、シネコン、飲食、食品等の集積により、“欲しかったが見つかる”場所を新たにつくります。
 - ・商業施設の上層階にはオフィスフロアを計画し、お買物にも便利で公共交通機関へのアクセスもスムーズな、みなさまが“働きたくなる”場所をつくります。
- 施設構成



	駅前用地	広島用地	合計	
敷地面積	㎡ 4,200	3,100	7,300	
延床面積	㎡ 25,500	12,200	37,700	
構造・規模	鉄骨造10階	鉄骨造6階	-	
貸付面積	商業	㎡ 6,300	16,100	
	オフィス	㎡ 4,100	0	4,100
	㎡	13,900	6,300	20,200

※別途隣接地にて駐車場を計画しております

【3 実証調査の詳細】

【3.6 その他(※記載は任意)】

(2) 市によるアリーナ構想

宮崎駅東口に、民設民営を基本としたアリーナ建設計画を進めており、昨年度基本構想を策定し、本年度は基本設計を行う予定としている(アリーナは令和5年供用予定)。このアリーナについても、駅周辺に集まったにぎわいを「まちなか」につなげる取組が必要となっており、アリーナでの興行等を目的に集まった人を中心市街地のエリア全体に波及させて経済循環を促進するためにも回遊性の向上は重要になっている。また、アリーナ建設については、商業団体や宿泊業等からの期待も大きく、本年度に入って、「アリーナ建設の着実な推進」と「アリーナに集まった人を中心市街地エリア全体に波及させるための回遊性向上施策の検討」についての要望が出されるなど、回遊性向上については関係団体からのニーズも非常に高まっている状況。

【図21：形成すべき人の流れ】



※(出典)宮崎市アリーナ基本構想

令和元年度 グリーンスローモビリティの活用検討に向けた 実証調査支援事業

実施計画書

実証地域	宮崎県延岡市 方財地区
提案者	宮崎県延岡市
事業名称	自律性の高い集落形成を後押しする新モビリティ実証事業

1

【1 実証調査の背景・目的】

実証地域の概要

(1) 実証地域の地理的特性

- 延岡市は九州で2番目に面積の広い市で、海・山・川の豊かな自然に恵まれた東九州を代表する工業都市として発展。高千穂町などを後背圏とした宮崎県北定住自立圏の中心となる拠点都市であり、沿岸地域に中心市街地が形成するほか、郊外部に**中山間地域・離島・半島などの多様な地理的特徴**をもつ。
- 実証地域「方財区」は中心市街地の**沿岸部・三角州地帯**に位置する集落である。市街地内を東流する五ヶ瀬川・大瀬川・祝子川の河口部に形成された三角州地帯で、市街地側へ渡河するには集落西側（約2.0km）の鷺島橋が唯一の手段となっている。

(2) 都市特性

- 方財区は総人口841人・高齢化率は32.1%（2015年国勢調査）で、総世帯309世帯のうち184世帯に高齢者が居住しており、少子高齢化が進行し続けている。
- 集落内は**古くからの家屋が連坦、生活道路は狭小な道路**が形成、集落から渡河した先に総合文化センターや健康レジャー施設、地域包括支援センター、病院等が立地する。
- 集落内に個人商店が2軒のみで住民行動は中心部に集中し、生活を支える路線バスが集落入口付近に運行する。しかし、地元住民からバス乗り入れの声が挙がるが叶わず、**公共交通ネットワークから孤立する空白地域**となっている（H20調査時点から）。
- 住民の83.3%が自動車を利用する一方、高齢で不便を強いられる交通弱者が存在する。
- **交通弱者は外出時に親族や隣人等に送迎を頼みながら日常生活を送っており**、タクシーは経済事情により何度も多用はできない環境にある。

(3) 地域の公共交通

- 最寄の鉄道駅（JR延岡駅）は片道約5km離れ、集落からは迂回が強いられる。
- 集落の入口付近には、病院やスーパー、市役所などの中心部（片道約7km）を經由してJR延岡駅へ向かう路線バスが平日1日3往復・土日祝1日2往復で運行している。



▲方財区航空写真（地理院地図）

※国土画像情報を元に加工

2

【1 実証調査の背景・目的】

実証地域が抱える交通課題

- 2019年3月に行った地域交通に関する意見交換会によると、集落内の交通弱者は外出時に親族や隣人等に送迎を頼みながら日常生活を送る一方で、送迎を頼むことへの遠慮から極力外出を控えている実態があり、暮らしの中で自由に外出できる環境の整備が急務である。
- 安全輸送の観点から路線バス等は近づくことができず、高低差のある集落内で高齢者は休憩しながらでなければバス乗り場までたどり着けない（15～20分の歩行負担）。また、沿岸部や河口部で強風に煽られる区域で、80歳を超える高齢者が自転車で外出するが、**身体にかかる負担が大きく自由な外出が難しい**。高齢者福祉の点からも“身近な住民同士で助け合って移動できる仕組み”が重要である。
- 一方で、本市は**地方部・公共交通産業の人材不足が顕著な地域**であり、2019年春に路線バスの大きな減便・縮小が実施された。市内のタクシーも乗務員不足によるお断りが生じており、今後も人材不足問題が深刻化するなかで、郊外部の生活を持続的に支えていくための新たな支線交通のあり方が問われている。

地域課題を解決するための方向性

- 地理的制約・小規模需要などの理由から公共交通ネットワークが立ち入れない外縁部集落において、安価（EV）で軽快（小型）・安全な（低速）なグリーンスローモビリティを市民（使う人）協働で構築することにより、**外縁部集落の市民が暮らしの中で自由に外出できる環境を整え**るとともに、**住民同士が助け合って公共交通を利用できる自律的な仕組みを確立**する。

グリーンスローモビリティの優位性

- 低床で高齢者にやさしい乗り物
- 低速走行で運転士にとってより安全性の高い輸送手段
- 小回りが利く車両で、集落内の狭小道路に対応
- 住民に使い勝手が良く集落の共有財産として愛着を生む
- 物品等の搬入出にも機能を発揮し、地域交流・行事等への活用・発展が望める

上位計画での位置づけ

- 延岡市地域公共交通網形成計画（2019.3）に示す**市民協働による移動手段の確保事業のモデル地区**に位置付け、H30年から**住民と一緒に検討を進行中**
- 2019～2020年は地域との対話・需要確認を含む**試行予定の期間**で、世帯または地元企業団体の協賛を視野に入れながら実現化を目指す



3

【2 実証調査の概要】

自律性の高い集落形成を後押しする新モビリティ実証事業

実証の全体像

〈グリーンスローモビリティの活用により目指す将来像〉

外縁部集落（空白地）における自律性の高い生活移動モデルの実現

〈実証コンセプト〉

市民（使う人）にとって使い勝手の良い地域交通を構築
～外縁部集落の自由な移動を支える新モビリティサービス～

○方財区グリスロ運行（グリスロ+路線バス）

- 集落内における予約制運行（無償運送による実証）
- 集落内の狭小道路を通過してバスが入れない家屋周辺を運行
- 集落内（自宅周辺の乗り場）～最寄りバス停までの移動手段
- 福祉分野等と連携した外出意欲を高める企画を併行開催
- その他、実証期間中に市内イベントへのお出かけ企画を推進

〈グリスロ導入により期待される効果〉

- 遠慮などなく自由に生活移動を行える手段 **「外縁部集落の生活環境」**
- 市内初となるEVIによるモビリティサービス **「ECO（環境）と交通」**
- 乗合交通に乗り一緒に出かけを楽しむ **「地域コミュニティ形成の促進」**
- 新たなお出かけ機会の提供により生まれる暮らしの楽しみや健康づくり効果 **「外出促進・健康増進」**
- 自分達で使い勝手の良い形を考え地域ボランティアで運行 **「地域協働」**
- ラストワンマイル確保による路線バス方財線の利用向上 **「持続性向上」**



4

【2 実証調査の概要】

市民協働で集落内の共有財産をつくる新モビリティ実証事業

実証により実現を目指す地域交通の将来像

〈本市が目指す将来像 - 延岡市地域公共交通網形成計画〉

「将来に持続可能な市民や来訪者の安心・快適なモビリティの再構築」

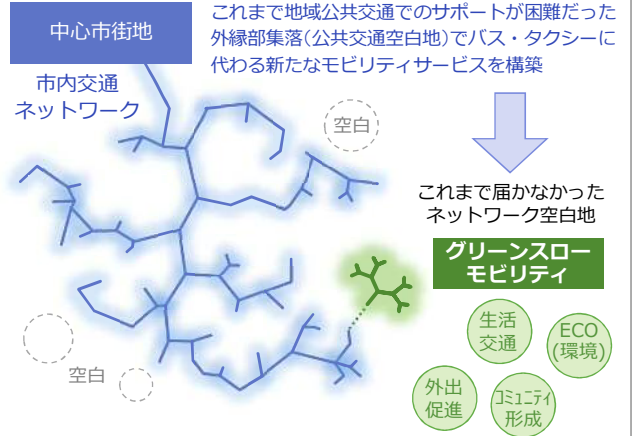
- 持続可能性を高める公共交通ネットワークの効率化、使う人(市民・来訪者)が必要とするモビリティに合わせたネットワークの最適化を掲げている。
- 本市と関係する多様なパートナーと連携した利用促進を進め、市民・来訪者が自家用車へ過度に依存せずに行動できるまちの実現を目指す。

4つの基本方針のうち実証に最も関わる事業方針

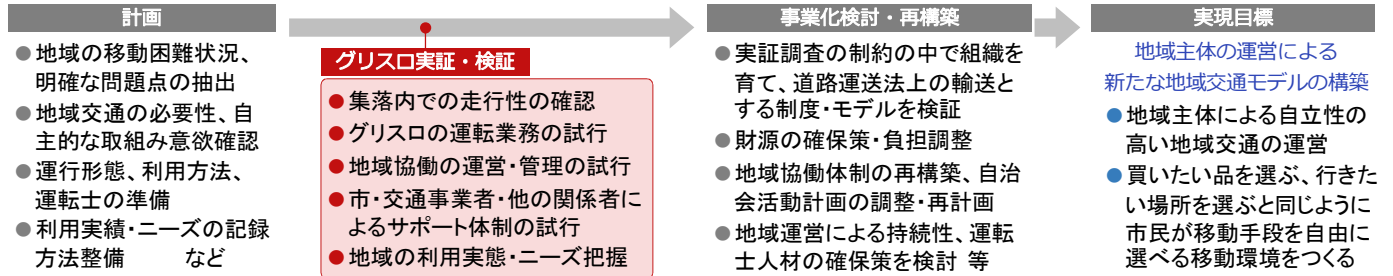
「多様なパートナーとの連携による“新たな地域交通”づくり」

- 基本方針4には地域協働による移動手段の確保事業を掲げ、H30年度には空白地等の条件不利なモデル6地区で地域座談会を実施
- 本実証地域は、交通不便状況及び自主的な取組み意欲を確認しており、複数の取組みの選択肢からグリスロ導入の可能性が示唆

〈事業イメージ〉



〈グリスロ事業のながれ〉



5

【3 実証調査の詳細】

【3.1 運用エリア】 (1) 方財地区ルート(方財区集落内～路線バス乗り場「方財」バス停)

■グリスロ運行概要

運行形態	予約制・集落内の運行(電話予約を基本)
利用対象者	方財バス停までを行き来する方財区高齢者等
運行日	毎日運行 9/21(土)～10/13(日)
運行ルート	自宅周辺の乗り場等～方財バス停
運行時間帯	午前9時～午後5時30分
利用料金	無償運送(互助の輸送)
使用車両	ゴルフカート4(人乗り) 1台
運転手	地域の運転ボランティア(方財区役員)



集落内の家屋付近はバスが入れない狭小道路(本通りを中心に住居形成)



※国土画像情報を元に加工

6

【3 実証調査の詳細】

【3.2 運用方法】

実施期間	令和元年9月21（土）～令和元年10月13日（日）
運行ルート	方財公民館 ⇒ （地区内周回） ⇒ 路線バス乗り場〈方財バス停〉
使用車両	ゴルフカート（4人乗り）1台
運行形態	予約制・集落内の運行（方財区副区長宅への電話予約を基本）
運賃收受	無償での運送（道路運送法上「互助の輸送」の範囲で試行）
運行日	毎日運行 9/21（土）～10/13（日）
運行時間帯	午前9時～午後5時30分
運転手	方財区に居住する区会員7名（第2種免許保有者含む）
車庫の設置場所	方財区公民館（実証期間中にテント及び電源を設置）
実施体制	運営主体：延岡市（交通政策課）＋方財1～3区 サポート：市内交通事業者、延岡市（健康長寿のまちづくり課）、恒富地域包括支援センター
利用者の確保方法	1) 実証地域を対象としたチラシ配布、防災無線による周知、敬老会での広報 2) 方財区長、福祉推進チーム等を中心とした積極的な周知活動、地域回覧 3) 想定される利用者を集めた乗り方講習会の実施 4) 地域包括支援センターの生活支援コーディネーターなどによる口コミ周知 5) 実証運行初日に市長を含む関係者を集めたグリスロ出発式を開催
その他取組み	運転士人材教育プログラム、福祉分野の関係者等と連携したお出かけ企画

7

【3 実証調査の詳細】

【3.2 運用方法】

運行日及び運行時間帯

〈方財地区ルート 運行日〉

日程	9月										10月												
	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
土	◎	◎	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	○	○	○	○	○	◎	◎
日	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	○	○	○	○	○	◎	◎
月	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	○	○	○	○	○	◎	◎
火	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	○	○	○	○	○	◎	◎
水	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	○	○	○	○	○	◎	◎
木	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	○	○	○	○	○	◎	◎
金	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	○	○	○	○	○	◎	◎
土	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	○	○	○	○	○	◎	◎
日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	○	○	○	○	○	◎	◎

➡ ●交通事業者の協力のもと、連休日に運転士人材への教育・指導を実施

※「◎」は市内イベント開催予定（むかばきビアフェスタ、鮎やな）
※「●」は福祉分野と連携した外出促進企画

〈方財地区ルート 運行時間帯〉

区分	便	時間帯	出発地	目的地	備考
方財バス停への行き	1便	9:00～9:40	自宅周辺の乗り場（集落内）	方財バス停	方財線9:45発
	2便	11:00～11:30	自宅周辺の乗り場（集落内）	方財バス停	方財線11:35発
	3便	14:00～14:40	自宅周辺の乗り場（集落内）	方財バス停	方財線14:45発（土日祝運休）
自宅への帰り	1便	11:30～12:00	方財バス停	自宅周辺の乗り場（集落内）	方財線11:28着（土日祝運休）
	2便	14:30～15:00	方財バス停	自宅周辺の乗り場（集落内）	方財線14:33着
	3便	16:30～17:00	方財バス停	自宅周辺の乗り場（集落内）	方財線16:23着（平日のみ）
	3便	17:00～17:30	方財バス停	自宅周辺の乗り場（集落内）	方財線16:53着（土日祝）

➡ ●本実証調査の結果を踏まえ、路線バスのダイヤ調整について交通事業者の協力意向を確認済

8

[3 実証調査の詳細]

[3.2 運用方法]

(参考) 外出促進企画及び市内イベント

- 地域包括支援センターや健康長寿の福祉関連部局、観光部局などの関係者と連携したお出かけ機会の創出・健康づくりにつながる外出促進企画を推進しており、本実証事業においても移動手段を単に用意するのではなく、外出意欲を高める利用促進企画を併せて実施

● 地域包括支援センターと連携して開催

26回目に
路線バスに乗って
ヘルストピアに行こう

2019年
9月26日(木)

時間: 9:00~15:00

集合場所: 方町バス停

参加費: 入館料255円 + 倉代 (70歳以上155円)
グループ利用する場合は入館料410円。

参加者人数: 25名
申込締切: 9月16日(月)

当日のタイムスケジュール

11:00 乗車開始
12:00 昼食
13:00 自由時間
14:20 バス出発
14:30 方町バス停・駅前

いつもバスを利用する方もどうぞぜひ
いつもヘルストピアに行く方もしばらく行かない方も
これを機にお出かけしてみませんか?

お問い合わせは、企画チーム代表者または企画実施地域包括支援センターまで
【企画チーム代表】真砂会: 海老 0982-00-0000
真砂会: 高田 0982-00-0000
【企画実施地域包括支援センター】 鶴巻川 0982-26-2330

● 広報チラシを用いた方財区内へのイベント周知・参加促進

今年も開催!
2019 9/21.22.
秋のむかばき
ビアフェスタ2019

全国のクラフトビール各種とグルメ、
ステージイベント 満喫の2日間。

5周年記念ビール無料付きます!
5周年記念ビール無料付きます!
5周年記念ビール無料付きます!
5周年記念ビール無料付きます!
5周年記念ビール無料付きます!

¥3000

9.21(土) 22(日) 無料シャトルバス運行! 延岡駅・会場
10:30~20:30の間、
3台のバスが延岡駅前と会場を20~30分間隔で出発!

11:00-21:00
宮崎ひでじビール行楽製造所
お問合せ先 0982-39-0090
宮崎ひでじビール株式会社

宮崎県
水郷延岡
鮎やな
2019

日本一の鮎やな 延岡川
300年以上続く伝統的漁法
「かきり鮎景百選」認定
2019年
10月1日(火)~12月1日(日)

営業時間 11:00~15:00/17:00~22:00
(土・日・祝日 11:00~22:00)

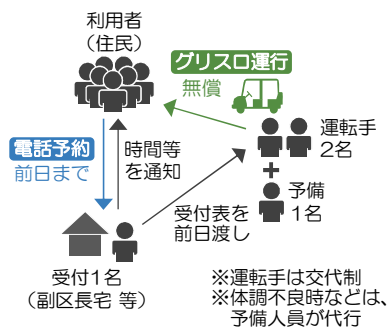
9

[3 実証調査の詳細]

[3.2 運用方法]

運行体制 (詳細) ・予約方法

- 利用者は(方財区住民)は、自治会役員宅(副区長宅等)に電話予約する。
- 「前日までの予約」を基本、電話予約の受付時間は午前9時~午後5時とする。
- 帰りの利用は当日口頭で受付可とする。
- 当日に急遽利用が必要となった方は電話して空きがあれば利用可とする。
- 受付した内容は予約受付表に記録し、運行前日に運転手に手渡し確認する。



(利用方法イメージ)

ご利用の前日までにご予約頂ければ、どなたでもご利用いただけます。
お出かけの際はぜひご利用ください。

ご利用方法

- 1 ○○副区長宅に電話
☎ 0982-00-0000
ご利用の前日(午後5時まで)までにご予約ください。
- 2 電話が繋がったら、スタッフに以下の内容をお伝えください
最初に「グリスロ利用の予約」とお伝えください。
①お名前とご連絡先 ③乗る場所・降りる場所
②利用日・時間 ④帰りの利用について
- 3 ご利用当日は、予約した時間までに乗り場へお越しください。
※予約を変更または中止したい場合は、もう一度ご連絡ください。
※悪天候などにより運行休止する場合は事前にご連絡いたします。

グリスロ運行予約 受付表

便	時間帯	名前	利用者の住所	乗車場所	降車場所	乗務員	人数	備考
便	9:00便 9:00~9:40							
行	11:00便 11:00~11:30							
	14:00便 14:00~14:40							
行	11:30便 11:30~12:00							
帰	14:30便 14:30~15:00							
	16:30便 16:30~17:00							

10

【3 実証調査の詳細】

【3.2 運用方法】

運転手のシフト交代制

- 1日あたりのグリスロ運行は運転手1名での勤務を予定
- 運転人員7名の交代制で運行（体調不良時には代行等）

(運転手のサイクル)

- 週1日勤務
- 連続運転 最大1h
- 運転手ごとに担当曜日を設定
- 1週間あたり4h勤務

時間	9/21	9/22	9/23	9/24	9/25	9/26	9/27	9/28	9/29	9/30	10/1	10/2	10/3	10/4	10/5	10/6	10/7	10/8	10/9	10/10	10/11	10/12	10/13
	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
9:00	開始準備 A	開始準備 B	開始準備 C	開始準備 D	開始準備 E	開始準備 F	開始準備 G	開始準備 A	開始準備 B	開始準備 C	開始準備 D	開始準備 E	開始準備 F	開始準備 G	開始準備 A	開始準備 B	開始準備 C	開始準備 D	開始準備 E	開始準備 F	開始準備 G	開始準備 A	開始準備 B
10:00																							
11:00	A	B	C	D	E	F	G	A	B	C	D	E	F	G	A	B	C	D	E	F	G	A	B
12:00																							
13:00																							
14:00	A	B	C	D	E	F	G	A	B	C	D	E	F	G	A	B	C	D	E	F	G	A	B
15:00																							
16:00																							
17:00	A	B	終了作業	終了作業	終了作業	終了作業	終了作業	A	B	終了作業	終了作業	終了作業	終了作業	終了作業	A	B	終了作業	終了作業	終了作業	終了作業	終了作業	A	B
18:00	終了作業	終了作業						終了作業	終了作業						終了作業	終了作業						終了作業	終了作業
休み	6名 休み	6名 休み	6名 休み	6名 休み	6名 休み	6名 休み	6名 休み	6名 休み	6名 休み	6名 休み	6名 休み	6名 休み	6名 休み	6名 休み	6名 休み	6名 休み	6名 休み	6名 休み	6名 休み	6名 休み	6名 休み	6名 休み	6名 休み

【3 実証調査の詳細】

【3.2 運用方法】

車庫の設置場所

本事業事務局及びグリーンスローモビリティメーカーとともに、現地環境及び設備について合同で確認(2019/8/21)



運行前点検・運行日誌

安全な運行の確保を目的として、運転手による運行前点検を実施(右示)するとともに、運行日誌を日々記録

点検日 令和元年 月 日 ()

車両No.	点検者	項目	判定	対処
1		タイヤの空気圧は大丈夫か?	良 悪	
2		タイヤに亀裂・破損などの異常はないか?	無 有	
3		ランプ類の点灯・点滅は正常か?	良 悪	
4		ランプ類に汚れや破損はないか?	無 有	
5		ボディに汚れや破損はないか?	無 有	
6		エンジンのかかり具合は良いか?	良 悪	
7		バッテリーの残量はありますか?	有 無	
8		警告ランプの点灯はあるか?	無 有	
9		ブレーキのききは良いか?	良 悪	
10		走行による不具合・異常はないか?	無 有	

運行前点検チェックシート(1日分)

方財区グリスロ実証事業 運行日誌

月 日 () 天気: 最低気温: 最高気温:

No.	運行予定	運行区間	運転手氏名	運行内容(上記「車庫」1段:1時間)										走行距離(車庫内移動、経路以外、走行中の距離、7PM以降など)									
				09:00	09:10	09:20	09:30	09:40	09:50	10:00	10:10	10:20	10:30										
9:00時																							
11:00時																							
14:00時																							
11:30時																							
14:30時																							
16:30時																							

運行日誌(1日分)

[3 実証調査の詳細]

[3.2 運用方法]

利用者の確保方法

- 広報チラシの作成・配布、区役員及び民生委員、地域包括支援センター関係者等と連携して広報周知を実施

① 方財区役員会での説明・周知、関係者の口コミ周知

- 方財区役員会で市職員の出張説明、地域福祉推進チームや生活支援コーディネーターなどによる口コミ周知を実施

② 地域回覧板や防災無線による地区への周知

- 広報チラシを用いて地区回覧板による全戸への周知、防災無線を用いた地区への周知を実施

③ 敬老会での出張説明・周知

- グリスロの利用が見込まれる高齢者を中心に周知を図るため、地区敬老会への出張説明・周知を実施

④ 運転者講習・利用者講習

- 区の地域福祉推進チームや地域包括支援センターの生活支援コーディネーターなどによる口コミ周知を実施

⑤ 路線バス利用促進チケットの配布

- 交通事業者の協力により、路線バス利用し放題となる利用促進チケットを配布

⑥ グリスロ出発式

- グリスロ実証運行の初日には市長を含む実証関係者を集めた出発式を開催



<広報チラシ>

新モビリティ実証プロジェクト
新たな地域交通「グリスロ」に乗ってお出かけしよう

「方財区・民間連携 グリスロ実証プロジェクト」は、方財区と民間企業が連携して、高齢者や障がい者など、移動手段が乏しい方への移動支援を目的として、新たな地域交通サービス「グリスロ」を実証運行しています。

【方財区・民間連携 グリスロ実証プロジェクト】
「方財区と民間企業が連携して、高齢者や障がい者など、移動手段が乏しい方への移動支援を目的として、新たな地域交通サービス「グリスロ」を実証運行しています。」

【グリスロ】
9月21日(土)～10月13日(日) 毎日運行

【運行時間】
9月21日(土)～10月13日(日) 毎日運行
9:00発 11:00発 14:00発
11:30発 14:30発 16:30発 17:00発

【お問い合わせ先】
0982-35-4830 (南線) 0982-5211-9500 (北線)

【お問い合わせ先】
0982-35-4830 (南線) 0982-5211-9500 (北線)

【お問い合わせ先】
0982-35-4830 (南線) 0982-5211-9500 (北線)



[3 実証調査の詳細]

[3.2 運用方法]

効果検証方法

(1) 利用者アンケート調査・聞き取り(座談会)調査

- グリスロを利用した方を対象にアンケート調査を実施
- 利用者の特性、当日の外出時の交通行動、満足度などを把握
- 利用者等への聞き取り(座談会)調査を通じて、アンケートに回答頂き、グリスロの有効性、事業継続意向などを併せて議論

(2) 運行団体への聞き取り調査

- 運行団体となる方財区関係者への聞き取り調査を実施
- 運行者の立場(運転手・受付)から、グリスロ運行の有効性、地域の負担度合い、利用者の要望、実施上の改善点などを聴取(事業化に向けて改善すべきポイント・課題を確認)

(3) 実証地域の全戸アンケート調査

- 方財1区～3区の全世帯にアンケート調査を実施
- 方財区内の地域交通サービス確保に関する意向を聴取
- 事業継続の意向、人的・金銭的負担の協力意向を含めて聴取

(4) 住民モニターへの行動ダイアリー調査

- 高齢者等を対象に実証調査のモニターを事前募集して実施
- 実証期間中の1週間において、モニターの1日毎の外出有無・移動パターンを詳細に把握

(5) グリスロ利用実績の整理

- 実証調査中に記録を行った予約受付表から、各日程の利用者数、利用場所、時間帯、反復利用などの状況を確認

調査メニュー	時期・方法	内容
利用者アンケート調査・聞き取り(座談会)調査	10月中旬～11月初旬 座談会での直接配布・回収	・ 属性(性別、年齢、職業、免許保有) ・ 交通行動(当日の外出目的・目的地、利用交通手段、乗り継ぎなど) ・ 満足度(区域、時間、乗り心地、環境等) ・ グリスロの有効性、事業継続の意向
運行団体への聞き取り調査	10月下旬 直接面談方式	・ グリスロの走行性(運行経路、道路環境) ・ 運行時間帯(便数、時刻設定、交代間隔) ・ 利用者の反響や要望 ・ 実施体制の負担度合い、改善すべき点等
全戸アンケート調査	10月中旬～11月初旬 郵送による配布・回収	・ 属性(性別、年齢、職業、免許保有) ・ グリスロの認知状況、利用状況(目的・目的地、時間帯、頻度など) ・ グリスロを利用する、利用しない理由 ・ グリスロの満足度(運行区域、時間、乗りやすさ、待ち合い環境、予約など) ・ 事業継続及び協力の意向(地域サービスとしての必要性、人的・金銭的負担など)
行動ダイアリー調査	9月21日～10月13日 事前配布、実証後に回収	・ 属性(性別、年齢、職業、免許保有状況、自動車保有状況など) ・ 【期間中】生活行動状況(1週間1日毎)⇒出発時刻、移動手段、目的地、帰宅時間
利用実績の整理	10月下旬 書類整理	・ 予約受付表に記載される実績値の整理

【3 実証調査の詳細】

【3.3 実施体制】

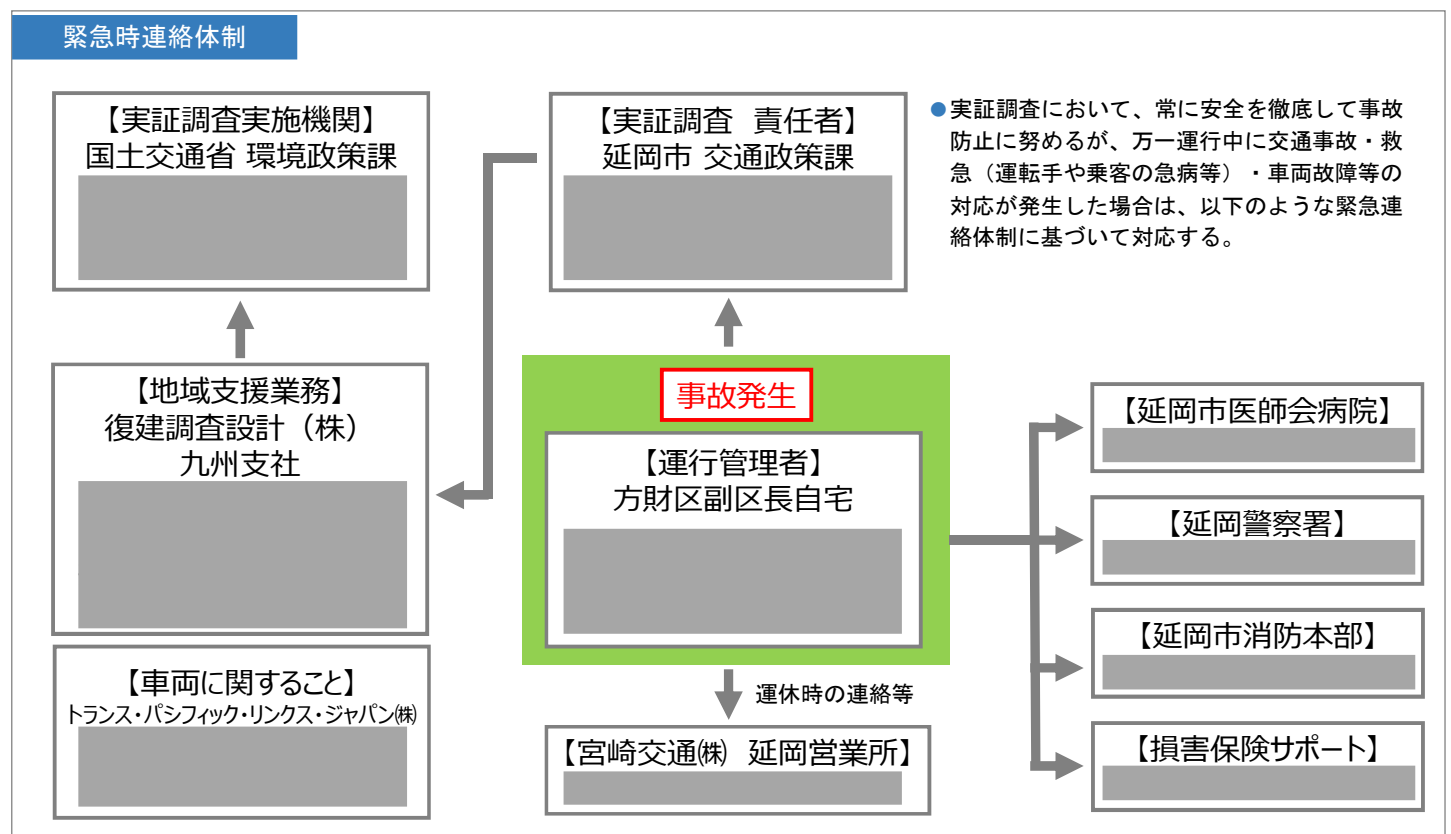
実施体制	
団体名	役割
延岡市	実証調査責任者、関係各所との調整
方財1区・2区・3区(自治区)	運転手人材の輩出、地区内高齢者と住民活動に関する情報提供、広報支援
宮崎交通(株)延岡営業所	運転手人材への教育・指導、運行体制の技術的サポート、
タクシー協会 延岡支部	運転手人材の輩出、運行体制の技術的サポート、補完的サービスの提供

地方公共団体内での役割分担	
所属名・担当者名	役割
交通政策課	実証調査責任者
交通政策課	方財1区・2区・3区との調整
交通政策課	警察・運輸局・交通事業者との調整
健康長寿のまちづくり課	福祉部門に関する事業との連携調整、地域包括支援センターとの調整
土木課	道路管理者として協議

15

【3 実証調査の詳細】

【3.3 実施体制】



16

【3 実証調査の詳細】

【3.4 関係機関との調整状況】

		団体名	実証調査の調整状況	事業化に対する協力意向	備考
公共交通機関等	電車	該当なし			
	バス	宮崎交通㈱	①同意済 ②相談中 ③今後実施	①あり ②実証結果で判断 ③なし ④未確認	
	タクシー	タクシー協会延岡支部	①同意済 ②相談中 ③今後実施	①あり ②実証結果で判断 ③なし ④未確認	
行政	道路管理者	延岡市土木課	①同意済 ②相談中 ③今後実施	①あり ②実証結果で判断 ③なし ④未確認	
	地方運輸局・支局	九州運輸局 宮崎運輸支局	①同意済 ②相談中 ③今後実施	①あり ②実証結果で判断 ③なし ④未確認	
	警察	延岡警察署	①同意済 ②相談中 ③今後実施	①あり ②実証結果で判断 ③なし ④未確認	
その他	自治区	方財1区・2区・3区	①同意済 ②相談中 ③今後実施	①あり ②実証結果で判断 ③なし ④未確認	運転手人材の輩出
	商工会	該当なし			
	観光協会	該当なし			
	商業施設等	JF延岡漁協 大和水産	①同意済 ②相談中 ③今後実施	①あり ②実証結果で判断 ③なし ④未確認	乗り場の支援
	福祉関係者	恒富東地域包括支援センター	①同意済 ②相談中 ③今後実施	①あり ②実証結果で判断 ③なし ④未確認	外出促進イベント支援
	その他	該当なし			

17

【3 実証調査の詳細】

【3.5 事業化に向けた検討】

構想の実現に向けた中長期のロードマップ

実施内容	平成30年度	令和元年度				令和2年度	……
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期		
実証地域へのモデル調査、地域との対話・事業		[進捗]					
実証調査の実施準備、関係者の調整、体制の準備等			[進捗]				
実証調査、意見把握・効果検証、とりまとめ				[進捗]			
事業化に向けた検証・計画、財源確保のための調整					[進捗]		
運営体制(自治会)の再構築、車両確保、広報等						[進捗]	
自治区・市・交通事業者の体制整備、再運行・検証						[進捗]	

事業化後の事業スキーム ※現時点（R1年度7月）での想定

〈道路運送法上の区分〉

自家用有償運送（交通空白地有償運送）

〈使用車両〉

ゴルフカート7人乗り（白ナンバー）

〈運行形態〉

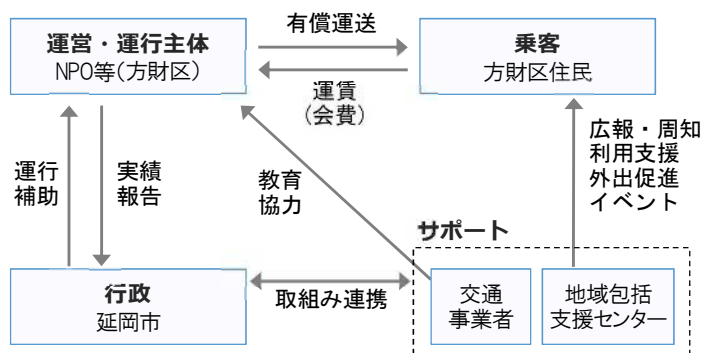
方財区内の予約制・集落内の運行

〈運賃収受〉

運賃は会費として徴収（NPO等の会費）

〈利用対象者〉

方財区住民とその親族、日常的な用務で方財区に行き来する者



18

【3 実証調査の詳細】

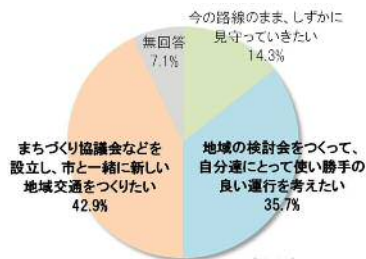
【3.6 その他(※記載は任意)】

H30年度に地域座談会を開催・地区内の交通問題について検討

- 地域にとって“使い勝手のよい”交通をつくることを目的として、地区住民との意見交換会（直接的な対話）を実施している。

〈開催概要〉

- 対象地区：方財1区・2区・3区
- 実施時期：2019年3月16日(土)
- 開催場所：方財公民館（移動困難者が来やすい場所で開催）
- 参加者数：地区の高齢者を中心とした住民28名
- 内容：地区内の交通不便状況、地域交通づくりの方向性



▲地域交通づくりへの意向



実証地域が抱える交通課題（意見交換会の結果）

- 世帯に自家用車はなく、送迎も頼める親族もいない高齢世帯が点在している。
- 方財町の奥側は、路線バスの乗り場まで遠く、バス乗り場まで歩いて15~20分かかる。高齢者は休みながらでないと歩いていけない。
- 世帯に自家用車がなく、送迎を頼める親族もいない世帯はタクシーになる。
- タクシーを使った移動費は往復3000円程かかり、市内に離れて住んでいる娘・息子に土曜日に送迎を頼むなどして出かけている。
- 息子と二人暮らしであるが平日は仕事のため、送迎を頼むことはできない。
- 親族に送迎してもらっている世帯は平日が仕事等によってできない場合があり、外出したい時にできない。
- 方財地区内を周回するバス（乗合タクシーなど）があれば良い。

【3 実証調査の詳細】

【3.6 その他(※記載は任意)】

福祉分野等と連携した地域交通を考える取組み

- H30年度は地域包括支援センターと連携した公共交通の乗り方教室を開催し、路線バスを使った外出プログラムの中で健康づくりイベント（アルツハイマー月間啓発イベント）に参加する等、福祉分野と連携した高齢者の外出支援を実施した。
- 地域包括支援センターや健康長寿の福祉関連部局、観光部局などの関係者、商業施設や病院の施設関係者といった多様な関係者との関係構築に取り組み、他分野と公共交通の双方に効果があり、お出かけ機会の創出・健康づくりにつながる外出促進企画を推進している。
- 公共交通サービスは“安全で便利な移動”を提供するが、外出目的がなければ移動が生まれることはなく、本実証事業においても移動手段を単に用意するのではなく、外出意欲を高める利用促進企画と連動することを計画している。

〈昨年度の類似する取組み〉

- 開催日 2018年9月22日(土) 9:30~13:39
- 開催内容 バス停時刻表の見方、バスの乗降の仕方、運賃の支払い方法等を解説、実際に運行する路線バスに乗車し、延岡市駅前複合施設エンクロスまで移動、エンクロスで福祉関係者によるアルツハイマー月間啓発イベントを実施
- 開催者 延岡市バス利用促進協議会・健康長寿のまちづくり課



▲バスの乗り方教室・乗車体験



▲健康づくり講座

● そのほか、観光部局と連携した「バス旅」企画を実施中



▲路線バスを利用した市内散策モデルコース

【3 実証調査の詳細】

【3.6 その他(※記載は任意)】

グリスロの将来的な展開の考え（地域の共有財産としての多様な活用方法を模索したい）

外縁部集落・地理的条件の不利な地区の自律性の高い活動を後押しする（自律的な集落運営を支援する）ための展開

(1) 「地域協働による交通手段確保」を先導する市内モデル地区としての展開

延岡市地域公共交通網形成計画に關係

- 本市は、公共交通空白地における**地域住民主導による移動手段の確保**（自家用有償旅客運送等）を目指しているところであり、平成30年度は**方財地区以外にも6地区**（空白地区、乗合タクシー利用低迷地区等）で地域住民を集めた座談会を実施している。
- これらの地区の中には方財地区同様、「新しい地域交通をつくりたい」意向をもった地域もあることから、実証調査において**実現モデルを検証した方財地区をモデル地区として市内への展開に繋げる**。

(2) 地域の見守りサービス（地域福祉分野との連携事業の構築）

延岡市地域福祉計画に關係

- 本事業の取組みで「方財区内における交通弱者の所在地」を確認しており、この地域に精通する情報は交通分野のみならず、**福祉分野への活用・展開**にも有効なものとなる。
- グリスロの利用予約がない日などは、**地域包括センターの活動**（地域福祉推進チームや生活支援コーディネーターによる**見守り活動・サロン**）に活用し、交通弱者等の高齢者の引きこもり対策の一環として機能する形態も想定している。

(3) 防災時の活用・展開（災害時の交通弱者等の避難支援）

延岡市地域防災計画に關係

- 上記「交通弱者の所在地」は、**災害時における“避難行動要支援者”**の把握にも寄与する。
- 地域防災計画に示される「避難行動要支援者等の円滑な避難を支える手段を地域の実情に応じて確保すること」に基づき、近年の異常気象や災害等による警報発令時に、**グリスロを使った交通弱者等の避難サポート**により地域の助けとなることを目指す。
- 水害時や南海トラフ地震時に、災害時支援者などがグリスロで地区を周回し、交通弱者などが優先的に避難できるようサポートする（将来的に、地域住民との避難訓練から活用を検証）。



視点	内容
移動環境	地域交通(ラストワンマイル)として使い勝手の良い移動手段を確保
環境	高齢ドライバーによる自家用車利用の低減、EVの活用
地域交流	地域行事・交流の支援(物品搬入出等)、隣人等とのコミュニティ形成
娯楽	観光用の市内散策プランと連動した新たなお出かけ機会の創出
福祉	高齢者等の見守り活動やサロンへの活用(参加しやすい支援)
防災	助け合いによる要支援者のサポート